

平成15年度研究報告書

児童虐待に対する情緒障害児短期治療施設の
有効活用に関する縦断研究

研究代表者	滝川 一廣	大正大学
共同研究者	四方 燿子	子どもの虹情報研修センター
	高田 治	横浜いずみ学園

社会福祉法人 横浜博萌会

子どもの虹情報研修センター

(日本虐待・思春期問題情報研修センター)

児童虐待に対する情緒障害児短期治療施設の 有効活用に関する縦断研究

(中間報告 2 新施設の分析)

目 的

児童虐待への社会的関心の高まりによって多くの被虐待児童が保護される動向のなかで、この子どもたちへはたんなる保護にとどまらない深い治療的援助が必要である実態が明らかになってきた。これらの子どもたちは虐待的な家庭環境から離してやりさえすれば、それで健やかに育つ子どもではない。虐待の過程で深い心的外傷を受けているうえ、しかるべき精神発達を支える養育的関与を与えられてこなかった結果、とりわけ情緒面において深刻な発達的な障害をあわせもっている。それはさまざまな激しい破壊的な行動、不適応行動、情動の不安定さ、その他の精神症状としてあらわれ、それゆえに精神医療、心理治療を含む専門的なケアを要する子どもたちが少なくない。

そのため、医学的・心理学的な治療機能をあわせもち、子どもたちに保護的な生活を与えて育みなおす情緒障害児短期治療施設が被虐待児童のケアの場として注目され、同施設への被虐待児童の入所が急増している。現在、こうした社会ニーズに比して施設の絶対数が不足しており、このため厚生労働省は各県設置の方針を打ち出した。その方針のもとに新施設が開設され、2000年度に全国17施設であったものが、2003年10月現在で25施設へと増えており、さらに新設の動きがある。しかし、大きな期待と抱負のもとに開設された新施設が多数の被虐待児を受け入れてゆく過程で運営上の困難に見舞われ、その困難を前にして、必要とされながらも新規開設が伸びなやみ、各県設置には至っていない実情もある。

本研究は、2000年10月以降2003年4月までに開設した5つの新設情緒障害児短期治療施設を対象として行った縦断研究調査および、具体的な事例によるケースカンファレンスとに基づくものである。それによって、新施設の治療の実態、効果、問題点を分析し、今後の新施設のあり方、新設にあたっての留意点、ひいては情緒障害児短期治療施設全体の今後のあり方を考えてゆくための資料とすることを目的としている。

調査方法と結果

全国17施設（2000年9月以前に開設された既存施設）において行ってきた縦断研究（中間報告1）と同一の調査質問項目により同様の手順でアンケート調査を行ない、対象5施設より全入所児童に対する回答を得られた。

対象5施設のうち4施設を訪れ、施設の状況を調査するとともに個別的な事例のケースカンファレンスを行った。

アンケート調査データによる新設施設の比較

1. 入所児童の概要

対象5施設の入所児数を表1に示す。2003年11月現在の数字である。定数に対する充足率が70%を切っている3施設には、①開設して半年足らずである、②児童集団が大きく荒れたため、いったん入所者数を絞って再建中、③施設内学級が未認可で施設職員が教育保証も行わねばならない、といったそれぞれの事情がある。

各領域の入所時に「問題なし」に該当する値(表2)は、被虐待児を母集団とする百分率である。中間報告1で示した17施設の値は、今回調査した5施設の値の中間あたりに位置する。レトロスペクティブな評定であった17施設のデータの信頼性に問題があるとは今回のデータからは言えない。また、ここ数年間で情緒障害児短期治療施設に入所する被虐待児の様相が重症化したとも言えない。

しかし、知的能力の遅れのある被虐待児(項目03と04を和した数)は、17施設の平均が24.8%であったのが、A園30.3%、B園7.7%、C園59.1%、D園41.7%、E園70.0%と増えている傾向が窺われる。また、特定の大人と持続的で安定した関係を持てる率も17施設平均より低くなっている傾向がみられる。

中間報告1では各施設間の差を取り上げなかったが、施設間の違いが大きいことを今回の5施設のデータは示している。以下に、データから推測できる範囲で各施設の入所児童の特徴を考察してみる。この際、どこまでを「問題なし」と評価するかには、施設により評定の仕方にある程度の異なりや幅が生じることも考えられる。たとえば医療色の強い施設では、眠りの状態や情緒の傾向などに細やかに目を向け、厳しく評定する可能性もある。このような施設全体の子どもを見る視点の傾向が、それぞれの施設の治療文化を生んでいると考えられ、これらのデータは子どもの実態だけでなく施設の治療環境を表している面も考慮に入れる必要がある。

A園

入所時の平均年齢が8.8歳で他に比べて低い。幼児を入所させている唯一の施設であり、今回の調査では44人中14名が就学前の入所で、うち12名が被虐待児である。被虐待児の割合は高く、小学校低学年以下の被虐待児の入所が多いことが窺われる。各領域の「問題なし」の該当率(表2)(施設内の問題を重視するため、「主たる養育者に示す愛着」、「虐待養育者に示す愛着」の領域を除く)をみると、ほとんどの領域で17施設平均より高く、「精神科領域の医療的ケアの必要性のない」被虐待児の率が高い。低年齢からのケアが多いためかもしれない。「睡眠の問題がない」子どもが多いことも医療的な援助の必要性の低さを裏付ける。該当率が半数以上の項目(表3-A)も「他児と安定した関係が持ちにくい」の1つしかなく、他の施設に比べて、問題が少ないと認知されているようである。

B園

「精神科領域の医療的ケアの必要性のない」被虐待児が7.7%と少ない割に、「情動の傾向に問題がない」被虐待児が23.3%と多い。情動的な不安定さ以外の問題から精神医療的なケアを要する被虐待児がかなりいることになる。知的能力に比して学力の低い子どもが多い。該当率が半数以上の

項目（表3-B）をみると13項目あり、学力、注意の問題、衝動性、攻撃的、ルールが守れないなどの出現率が高い。これらからみて、いわゆる「落ち着きのない子」、状態像だけからみれば「ADHD」などに行動特徴が近い被虐待児が多いことが推測される。

C園

表2からは、17施設の平均に近く、出現率が50%以上の項目（表3-C）は「寝付きが悪い」と「自信がない」の2つだけである。

D園

入所時の平均年齢が高く、被虐待児の割合は他施設に比べて低い。「精神科領域の医療的ケアの必要性のない」被虐待児は0%。「大人に対する態度」「大人に対して目立つ行動」「子どもに対して目立つ行動」という対人関係の問題、「情動の傾向」について「問題のない」がいずれも0%で、対人関係や情動面に問題をもたない被虐待児童がいないことが特徴である。しかし「いわゆる問題行動がない」被虐待児も16.7%で、それらの問題が必ずしも大きな逸脱行動をいつも招くとはかぎらないことがわかる。「特定の大人との安定した関係」を形成できる被虐待児の率も低く、「特定の子どもとの安定した関係」を形成できていた被虐待児はいないなど、ここにも対人関係能力の低さが窺われる。該当率が半数以上の項目（表3-D）をみると、27項目あり、「寝付きの悪さ」や「過敏」、「浮き沈み」といった情緒面での問題もあり、対人関係がうまくとれず、「自信」がなく、自分自身に関する構えの投げやりな様子の子が多い。心理的な脆さを窺わせる重い被虐待児が多いと推測できる。「精神科領域の医療的ケアの必要性のない」ケースが0%という数字と重なるのもであろう。

E園

在園児数が少ないが、入所年齢が高く被虐待児が多く、なかでも性的虐待の子どもが多いのが大きな特徴である。「精神科領域の医療的ケアの必要性のない」被虐待児が0%で、D園と同じく「大人に対する態度」「大人に対して目立った行動」「子どもに対して目立った行動」という対人関係の問題、何らかの「情動の傾向」について「問題のない」被虐待児はいない。該当率が半数以上の項目（表3-E）は26あり、「寝付きの悪さ」、「不安」が8割、「衝動性」が7割、他に「知的な遅れ」、「無断外出、無断外泊」、「自傷」といった問題が他施設に比べて多い。4割が「自殺企図」、「喫煙」の問題を抱えている。これら全体からとらえると年長で困難な問題を抱えたケースが多く、精神科の思春期病棟の様相に近い園であると推測される。

2. 入所時の状態と現在の状態

「現在の状態」とは、被虐待児の中で入所して半年以上を経ている者を母集団としている。各領域の「問題なし」の変化（表4）と各施設の該当率が半数以上の項目の変化（表5）を示すが、まだ子どもの数が少ないため、統計的な考察には限界がある。

A園

表4から、現在の状態が17施設の平均に近似している。項目のなかでは他児との関係の安定が入所時に較べて伸びている様子がある。

B園

「特定の大人と安定した関係」をすべての子どもが持てるようになっている（表4）。表5-Bより、「自信がない」、「ルールが守れない」、「ルールを忘れてしまう」という項目の改善も大きく、「職員の気を引く」「自分のことで精一杯」の率も減っている。職員との関係で、こころに余裕が生まれている様子が窺える。

C園

多くの領域に若干の改善が見られている（表4）が、「特定の大人との安定した関係」の改善がとくに大きく、ついで「生活上の様子」の改善が大きい。

D園

ほとんどの領域で若干の改善が見られている（表4）が、「特定の大人との安定した関係」と「生活上の様子」の改善が大きいことはC園と同様である。表5-Dでは、とくに「過敏」な子、「職員との安定した関係がもてない」子が減っている。「自分のこと」、「未来への関心」がでてきた子が増えていることも窺われる。他方、「他の子どもと安定した関係」はあまり増えておらず、「自信」のあると見られる子も少ない。

E園

表5-Eでは、「寝付きの悪い」子どもは減るが、「不安」な様子の子は増えている。「職員への反発」や「両価的態度」を示す子は減っているが、「気を引く子」の率は高いままである。「無断外出、無断外泊」、「自傷」、「自殺企図」などの問題行動は変わっていない。ただし、開設が新しく、入所後の治療期間が短いケースばかりであることも考慮すべきだろう。「喫煙」が増えていることは気になる場所である。ただ、問題行動は過去数ヶ月に1回あっただけでも「問題あり」とされる。頻度のほうの変化を見ると、自傷、自殺企図については4人のうち1人の頻度は減っており、残り3人はまだ大きな変化はみられていない。

3. 改善率と悪化率

改善率は、項目ごとに入所時に何らかの問題があった被虐待児の人数の中で現在問題がなくなった人数の率を示す。悪化率は、入所時に問題がなかった被虐待児の人数の中で現在問題が生じた子どもの人数の率を示すが、項目によっては入所時に「問題がなかった」ケースが極端に少ないものもあり、分析に注意を要する。表6は、各領域の改善率、悪化率を示す。表7は改善率が50%以上でかつ、該当児童が1人の場合（1人中1人または、2人中1人）を除いた項目を示している。表8では、悪化率が20%以上でかつ、当該の児童が1人の場合を除いて示す。

表6から「特定の大人との安定した関係」の改善が全体として良好で、表7より、「(大人に対して)表面的」、「(子どもの中で)孤立」の改善が4施設で、「不眠」「浅眠」「むさぼり食い」「抑鬱」「不活発」「不安」「(大人に)うまく近づけない」「(大人に対して)不安定な距離」「(子どもに)苛められ」「(特定の大人と)一定しない関係」「自分に無関心、投げやり」「性的な逸脱行動」が3施設で、どれも5割以上の改善を示している。

「1. 入所児の概要」で示されたように入所時点での子どもの状態や問題のあり方、つまり初期条件の違いが大きいため、施設間での改善率や悪化率の差を較べてケアの優劣を考えることは統計学的に

意味がない。それぞれの施設において、なにの改善率が高いか、低いかを分析して、施設ごとの特色、成果の上がった点や上がっていない点をチェックすることが重要である。

A園

改善されている項目も多いが、悪化がみられた項目もある。新たな「問題行動」を示した子が多く（領域では13人中3人、項目では「公共物の破壊」が25人中5人）、「大人に対して両極端」「裏表のある態度」、「ルールを守れない」「他児に攻撃的」といった問題が出てきている。この理由を推測すれば、年少児が成長につれて問題行動を出すようになってきたという可能性などが考えられる。

B園

悪化している領域、項目がほとんどないことが特徴である。「キレル」、「大人に対する攻撃的態度」、「ルールを忘れる、注意されても忘れる」は4人中4人が改善されている。「2. 入所時の状態と現在の状態」で述べた所見とあわせると、入所児童の概要で示されたいわゆる「落ち着きのない子」が、職員との関係から改善してきている様子が推測される。

C園

改善の見られる領域も多い。「情緒の傾向」「大人に対する態度」といった領域では改善率は低いものの、「抑鬱」「不活発」「悲哀」「過敏」「不安」といった神経症的な傾向の改善や、大人に対して「表面的」「オドオド」「いい子に振る舞う」「顔色を窺う」「過剰なサービス」などの傾向の改善が見られ、気持ちが解放されてきている様子が窺われる。しかし、「大人に対する行動」、「社会的ルール」、「問題行動」で新たに問題を出した子が数名いる。表8より、大人に対する「攻撃」的態度、大人に対する「反発、攻撃」的行動、「反抗、反発から（ルールを）破る」といった項目で悪化が見られ、「気をひく」「両極端」な態度など大人との関係が難しくなっていることが予想されるとともに、「他の子に対する攻撃」「公共物への器物破損」など乱暴な行動を新たに出した子が数名いる。「孤立」など自分を抑えている様子は改善され、自分に関心を向けるようになったかわりに、攻撃性を表に出す傾向がでてきているようである。

D園

表7より、「健康への無関心」「未来への関心、希望なし」「好かれることを放棄」等の「自分自身に対する構え」と「食事中落ち着かない」、「生理の始末ができない」、「むさぼり食い」などの改善がよい。「2. 入所時の状態と現在の状態」で述べたことと同様であるが、園のなかで生活が安定して来ていることのあらわれであろう。

E園

調査時点で開設半年をようやく過ぎた施設で、該当数が少なく治療期間も短いため、たしかな考察は難しい。「不安」は新たに5人の子が示すようになっている。また、「情動」と「大人に対する態度」、「子どもに対する行動」という対人関係とにおいて、入所時点で全員が何らかの問題をもち、その悪化率が0%なのはもともと問題が非常に重いケースであることのあらわれと見ることもできる。改善率も0%で、半年間での情動傾向の変化はみられていない。精神科の思春期病棟的な色彩の濃い施設であるため、情動面でとくに深い困難を抱えた重度の子が入ってきている可能

性や、施設としてもそのような問題を敏感にとらえ、改善と判定する基準が高いという可能性も仮説的に考えられる。

まとめ

統計的なデータから分析して、施設によって入所児童の実態に大きな幅があることがわかった。一口に「被虐待児童」と言っても、その年齢、どんな虐待を体験してきた等によって、示される情動面、行動面、対人関係面における特徴や問題の重さに多様な幅がある。その幅のなかでどのようなケースを主にケアしているかに施設ごとで違いがあり、それがそれぞれの施設を特徴づけている。

この違いは、各施設のおかれた諸条件、すなわち①児童相談所の措置方針、③施設の性格（児童養護施設と関連が深い施設、医療機関と関連の深い施設、まったくの新規施設、種別変更をして開設した施設など）と運営方針、③どのようなネットワークをもっているか、④地域性、などが複雑に絡んで生じていると考えられる。

とりわけ新設施設にこの幅が大きいかどうかは、既存の17施設でも同じ比較分析をしてみないと明確なことはいえない。

情緒障害児短期治療施設の有効活用という視点から、次のことが指摘できる。

①この幅の広さは、それぞれの施設での経験を持ち寄れば、年齢も虐待のあり方も児童の問題のあり方も多種多様な児童虐待ケースに対する非常に幅広い治療経験が網羅的に集約できる可能性を示唆している。施設間でのスタッフの交流や情報交換は互いに未経験な部分を補いあい、子どもの理解やケアの視野をひろげることに役立つにちがいない。また、臨床研究という視点からも、被虐待児ケアへのこれまでなかった数多くの多角的な資料が得られることになるだろう。

②裏返せば、こうした交流がなされなければ、それぞれの施設での限られた経験からくる狭さやその施設固有の条件からくる偏りが生じる危険がはらまれる。施設間の交流が重ねられ、情緒障害児短期治療施設としての基本的なケアの枠組みや考え方が共有され、それらを共通基盤としながら、各施設の条件にかなった独自性や創造性が発揮されることが、有効かつ信頼性の高い治療資源として情緒障害児短期治療施設が社会にひろく認知され、活用されてゆくための重要不可欠な課題となるであろう。

治療効果という視点からは、このように入所児童に多様な幅がありながら、入所後の状態の変化や改善率をみると共通性の高い部分が見いだされる点が注目される。「特定の大人との安定した関係」の改善がよいこと、睡眠や食事など日々の生活の基本的なベースとなるものの改善がみられることである。

虐待を受けてきた子どもの回復と再成長には、安定した大人との信頼関係と、自分の日々の生活がしっかりと護られている安心とを子どもがもてることが治療的な基盤として必要であり、これらの改善はきわめて重要なことである。また、どの施設でもこれらに重きを置いたケアがなされている成果とみることができるかもしれない。

ケースカンファレンスからの分析

ケースカンファレンスは、施設の心理部門・生活部門のスタッフ、施設長、施設内学級の教員など児童にかかわる者のうち出席可能な者全員、および本研究の滝川、四方が臨席した。一施設では、ネットワークを作っている地域の児童養護施設の職員、クリニックの医師、地元校の教員等も参加した。児童の直接処遇にあずかる心理・生活の担当スタッフがケースの概要および治療経過を報告し、他のスタッフも随時補足を加え、質疑をまじえて全員でケースについての検討を行った。

匿名性保持のため、具体的な事例の記述は避け、4施設でのケースカンファレンスから浮かび上がった新設施設における治療の特徴や問題点を整理して総合的に考察する。

1. 入所時のあり方と児童との最初の出会い

施設治療は児童が入所したときからはじまるのではなく、入所前が大切という意識を強くもつ必要がある。児童相談所、原籍校、(措置変更のケースでは)前施設などと一応協議がなされているものの、ややもすれば事務的・形式的な手続きに流れやすい。多忙さや地理的条件など、それなりの事情はあるのだが、その結果、入所時点での児童の見立て(アセスメント)とそれに基づいたケアの見通しが白紙に近い状態での受け入れになっているケースが少なくないことがわかった。

このために以下の問題が起きやすい。①アセスメントや当面の見通し、方針がまったくないところで出会いが始まり、児童に対して「どういうわけで入所し、ここでなにを目指せばよいのか」「この先どうなるのか」という説明や入所ケアの合意がなおざりのまま、子どもの施設生活がスタートしてしまう。これは子どもを不安にするし、施設にすぐに安定できず、必要以上の試し行動(アクティングアウト)を引き起こしやすい。②その子がどういう子どもで、いまどんな援助が必要か、という子どものアウトラインの把握や見通しがスタッフ間で共有されずに子どもへの取りあえずのかかわりが始まる。そのため問題行動の改善やそのつどの子どもの行動への対処のみに追われて、その子どものトータルな姿の把握、施設全体としてのケアの統合、援助の目標設定などが不十分なものになりやすい。

これは治療に不必要な遠回りをさせ、子どもにもスタッフにも過大な負担を与える結果となる。入所前の関係諸機関との密接な協議、場合によっては子どもへの事前の面接を行ない、子どものアウトラインや見通しを把握してから子どもを施設に迎える努力が、その後のケアを円滑なものとしてゆくだろう。

上の問題と重なるが、施設に子どもを迎えたとき初めての面接(初回面接)が重要である。このときにきちんとしたアウトラインの把握(その子がどういう子なのか)と、子どもとの間で施設ケアの合意(ここでなにをしてゆこうか)とがなされなければならない。セラピストや精神科医の専門性が発揮されるべき部分だろう。初回面接において把握すべきことのポイント、子どもとの間で合意されるべきことのポイントは、かなり普遍性をもって定式化できるはずで、情緒障害児短期治療施設全体が共有できることのひとつと思われる。

2. 生活援助のあり方

アンケート調査結果の分析から「特定の大人との安定した関係」の改善、生活の基本的なベースの

改善が、全体的にみられる改善点で、これには入所児童への日々の生活的な援助が大きな役割を果たしていると考えられる。

その子どもの状態に合わせたきめ細かな生活的なケアが、子どもの安心感を育み、情動の安定をもたらしている報告がみられた。この際、①担当の保育士だけでなく、施設のスタッフ全体にその子への理解と治療方針とが共有されており、また、チームとしてスタッフ同士が支え合う構造ができていること、②子どもにとっての支えが、安定した日課のなかで身の回りのなげない、しかし手数をかけた世話を受けるといった体験として与えられていること、大人から根気よくねばりづよくかかわってもらう体験として与えられていること。この①②が生活的な援助の効果を高める条件となっている。

重い虐待体験と心的外傷を抱えた子どもに担当スタッフが尽力的にかかわり、その努力によって児童は大きく改善しているものの、そのスタッフの疲労と消耗が著しい報告があった。被虐待児童がしばしばみせる、しがみつきや過度の欲求、それが思うにまかせないと起きる感情爆発や暴力などによってスタッフの生傷がたえないという状況だった。

経験の浅い新設施設の新任職員の資質向上はいうまでもなくたいせつな課題だが、現場ではむしろ資質の高い、施設ケアの中核を担っているスタッフの過剰負荷による消耗が深刻となっている。困難なケースを集中的に引き受けるからである。施設がこれからというときに力量の高い将来性のあるスタッフが燃えつき現場を去るという現象がみられ、これは大きな損失である。施設全体としてスタッフ同士が支え合える構造を確立して重いケースを担当するスタッフへ心身の負荷が集中するのを避けること、スーパーヴァイザーによるカンファレンスを通して職員の視野拡大やチーム治療の統合およびメンタルサポートをはかることが重要であろう。

精神科病院と密接なつながりをもつ施設では、施設の生活に「生活の場」という空気が薄い印象があった。病院における入院治療と施設における入所ケアとの境界や意味のちがいが子どもにとって不分明なまま、病院への一時保護から施設へ、あるいは施設ケアから入院治療へと往復するケースがあり、これは子どもの側からは日常の生活的な基盤が定まらない体験となりやすい。解離等の精神症状の顕著な重い被虐待児、とくに思春期ケースでは精神科病院との連携を要するケースが少なくない。病院と密接なつながりを有するこの施設の条件は、被虐待児のケアの場として独自の大きな可能性をもっているが、それだけに子どもがそれなりに安定した「生活の場」として施設に根をおろすことができ、そこをベースとして、必要に応じて「専門医療の場」として病院を活用するという機能分担のしくみの確立が今後重要だろう。

安定と安心の与えられる生活の場、すなわち育ちの場を奪われ続けてきたのが虐待を受けてきた子どもたちの特徴である。まずそれらを子どもたちに与え直すべき生活の場を保証するところから被虐待児のケアははじまる。一般の子どもたちが日常のなかで体験してきたであろう安定と安心を、スタッフとの生活的なかかわりを通してあらためて与えてゆくことが施設ケアのベースである。

3. セラピーのあり方とセラピストの役割

新設施設でのセラピストの役割や子どもへのかかわり方は、まだ手探りで試行錯誤の段階にあるように思われた。オーソドックスな心理療法の多くは外来型（密室型）の面接技法・治療技法として確立されてきたもので、入所型の共同治療のなかで子どもたちの毎日の生活に接しながらの心理臨床の

あり方を学ぶ機会は臨床心理士の養成課程においても乏しく、多くのセラピストにとって情緒障害児短期治療施設に就職してほとんど初めて取り組む課題となっている。そのため、施設ケアでの心理治療的なかかわりにおいて、子どもに対するケアワーカーとしての役割とサイコロジストとしての役割、ケア生活場面での関与と心理面接場面での関与とをどう統合するかをめぐるセラピストの戸惑いや苦労が窺われる報告が多かった。

オーソドックスな外来型の心理面接によってトラウマセラピーを目指すかかわりのなされたケースでは、生活場面での体験と治療場面での体験とが繋がらず、子どもの心理アセスメントや治療目標が施設のなかで共有されないままケアが進み、セラピストのかかわりが施設ケアとしての子どもの援助にうまく結びついていない憾みがあった。これは一般に入所ケアにおいて外来型の心理療法が外来治療における原則どおりに進められるときに生じやすい問題点であろう。

施設によっては、男女の生活空間を分け、男子の生活場面にかかわるセラピストは女子の心理面接だけを担当するというシステムによって、生活場面での援助と心理療法とを画するという工夫もみられた。オーソドックスな治療技法をまもるための苦肉の策といえるが、報告された治療経過をたどってみると、心理面接が生活状況とは切り離されていることのマイナス面、たとえば子どもから見たとき面接のなされる意味、セラピストの役割がかえって曖昧でわかりにくいものになってしまっているところが問題点として指摘できた。

逆に心理面接の場면을生活的な援助に近づけようとする工夫の報告もあった。セラピストと一緒におやつ作りをするなど。被虐待児の多くは人とのかかわりにおいてあまりにも育っていないところが大きく、いわゆる神経症圏の子どもを対象に方法化されてきた従来の遊戯療法やカウンセリングの技法よりも、このような現実的・日常生活的なかかわりと支えによってはじめて関係が育ってゆく面が強い。このようなかかわりが、さらに生活場面とのつながりで統合的にとらえられるようになり、セラピストと二人でのおかし作りから始まり、やがて小規模なグループワーク等へと発展してゆくといった展開がなされることが、施設ケアのなかでの心理治療のひとつの姿であろう。

セラピストは、クライアントの内的な世界の共感的理解を仕事として訓練されているので、被虐待児の内奥に潜む深い攻撃性や死の影をもっとも感受して、ときとして深い恐れやおびえを強いられる。それが浮き彫りにされた報告もあった。それを感受してしてくれる者が傍らにいることは子どもにとってたいせつなことなのだが、これをひとりで引き受けるのはそのセラピストにとって過剰負荷ともなる。その恐れやおびえを率直に語りあえるチームの支えがあることが、入所施設における共同ケアとして心理治療がなされることの大きな利点である。

情緒障害児短期治療施設におけるセラピストの機能は、日常の生活的な援助の場面と個別的な心理面接の場面との双方から子どもにかかわることによってその子どもの全体像と現状をたえずとらえてゆき、その子どもについてのチーム治療を統合する軸の役割を担うことであろう。これに加えて医師の役割は、医学的なケアを要する個々の子どもへの臨床に加えて、施設全体としてのチームの軸となり、スーパーヴィジョンを通して施設ケアを統合しつつ、職員全体をサポートすることであろう。

4. 親（家族）とのかかわり

虐待ケースにおいては親（家族）自身が多くの場合、経済的・社会的な困難を抱えて孤立している。

そうした親（家族）への支援は、その必要性が強調されながら、しかし現実にはなかなか難しい問題である。家庭支援を児童相談所が行うのか施設が行うのか、その役割分担や責任性があいまいなまま入所ケアがはじまり、結果的に、家族へのかかわりがどちらからもなされないで抜け落ちてしまっていたケース、児童相談所の担当者の判断（家庭復帰は不可能）と施設の担当者の判断（関係改善の余地はあり家族の再統合をめざしたい）との間に食い違いが起きていたケースなどの報告があった。

先に述べた入所にあたっての児童相談所との十分な協議に加えて、入所後も情報交換や連携を粘り強く継続することが重要である。双方の多忙さ、余裕のなさ、地理的距離などがネックとなりやすい。また、児童相談所の担当スタッフの異動によってつながりの糸が切れてしまうことも起きやすく、施設側が家族との関係や諸機関との関係をつなぐソーシャルワーク機能を担うことが被虐待児のケアには欠かせない。それに持続的に専従できるスタッフが施設に必要であろう。

5. 学校教育をめぐる

施設内学級がなく地域への通学もできず、学校の時間帯も施設内で子ども全員が過ごし、施設職員がその間の学習指導もしている施設がある。教育の保証という面からも問題であり、施設職員の業務負担が過剰となっており職員の疲弊が甚だしい。子どもたちは施設の生活空間で24時間を場の切り替えなしで過ごすことになり、スタッフとのかかわりにおいても子ども同士のかかわりにおいても煮詰まりが生じて、そこから生じるストレスも過大となって子どもの落ち着きなさを助長し、それがまたスタッフの疲弊を大きくする悪循環がみられた。

これは情緒障害児短期治療施設における施設内学級や分校の重要性を示すものである。施設内学級・分校の必要性として以下があげられる。①アンケート調査の結果から明らかなように被虐待児には知的なハンディキャップがみられたり、知的能力にアンバランスな学習の遅れが目立つ子どもが少なくなく、特別支援的な教育を必要としている。②虐待体験がそれをもたらすのだが社会行動における未熟さや適応困難、逸脱行動が大きいため、一定の改善をみるまで地域の学校への通学は難しい。③施設での生活的援助、心理治療のかかわりと教育的支援とがチーム・ケアとして統合されることが、被虐待児のケアにとっては重要な意味をもつ。それほど発達早期からの虐待は、広範な領域にハンディキャップをもたらすのである。④施設内学級・分校は、本校との交流学习、原籍校との連絡・試験通学などを通じて地域と子どもとをつなぐ重要なかなめとなり、進路指導（進学・就職）など子どもの社会復帰（社会参加）を支えるためにも欠かせない役割を担っている。子どもたちは学校を通して地域や社会へ開かれるのである。

今回のケースカンファレンスでは、生活や治療でのかかわりに焦点を絞り、教育場面の具体的検討にまでは入らなかったが、教員のかかわりが施設職員の届かない部分をカバーし、施設生活とはまた別の体験の場を子どもたちに与え、施設ケアにきわめて重要な役割を果たしていることが読み取れた。教員の数、力量のいかに施設にとって大きい。そうした教員の配置なしで子どもに取り組んでいる施設の困難の大きさは、先に指摘したとおりである。

施設運営面からみると、年度当初の児童・生徒数によって年間の教員数を決められる教育人事のシステムが運営に無理を強いているところがある。次年度の教員確保のために年度末に一度に新規ケースを多数入所させることになり、それが施設の子ども集団の大きな不安定化を招くという問題で

ある。子どもたちの生活の場である施設が安定した生活環境におかれるためには入所児のゆるやかな入れ替わりが必要なのだが、年度替わりのつど大きく変動するため、その安定の維持がきわめてむずかしい。

6. 地域のなかの施設

地域とのつながりの深浅には、施設ごとにより差がみられた。地域からのサポートや理解、協力の乏しい施設では、とりわけ問題が困難な子どものケアはむずかしくなる。施設が地域内で孤立すれば、子どもも孤立するからである。施設内外での問題行動がよけい大きくなりがちで、さらにそれによって施設が子どもをいっそう内側に抱え込ませざるをえなくなり、ケアが外部へのひろがりを見失い、悪循環が生まれる。また、施設職員にとっても、外からねぎらいや励まし、協力がいない状況のもとでは士気が上がらない。

情緒障害児短期治療施設の特徴は「チーム治療」にあるが、そのチームが施設の外からも支えられているという安心があるとき、相当な困難なケースをやりぬけることを示すケース報告に接した。地域的なネットワーク自体が、ひろい意味で子どもたちを支援するための「チーム」をなしてゆくことが理想であろう。

地域とのネットワークがうまくいっている施設は、地域との接点として、①学校、教育委員会との関係（施設内学級を通してのつながり）、②地域の医療機関（クリニック、病院）との関係（医師同士の連携）、③他の児童福祉施設との関係（同職種同士のつながり）、④地域の自治会との関係（地域活動への参加、施設設備の地域開放などを通しての相互協力）等を活用としている。

施設が新設される場合、その計画段階・準備段階から、地域のなかで支えられる施設、ひるがえって地域ケアをになえる施設として、その準備が図られることが重要であろう。施設が地域にひらかれ地域に根づくためには、情緒障害児短期治療施設の医師が施設内の子どもを診るだけでなく、地域医療の一環をきちんと担って地域の子どものための診療にあずかれる外来診療機能のシステムをなんらかのかたちで確立することが不可欠である。

7. 児童相談所、行政との連携

地域の窓口となって施設と地域をつなぐのは、制度上は措置権をもつ児童相談所の役割とされている。しかし、現実としては、児童相談所の多くは施設の立地する地域とは離れているうえ、多大な業務を抱えており、担当者の異動も多く、その役割を果たせるだけの条件が与えられていない。上述のように施設が自前の努力で地域ネットワークを作ってゆくことが欠かせない。

しかし、行政的な介入や権限行使も必要とする児童虐待への援助について、児童相談所との連携と協力が必須であるのはいうまでもない。事前の児童相談所と施設との協議の重要性についてはすでに指摘したとおりである。

それぞれの施設の特性と状況とが児童相談所によく理解され、それを考慮した上で措置がなされることが必要である。虐待を受けてきた子どもは行動化が激しく、そのような子どもの入所が一度に重なると施設の対応力をこえて、いわゆる「施設崩壊」を招く。今回の調査では、一施設において開設2年目にそれが起き、立て直しの苦慮していた。一人ずつ間をおいてゆるやかに受け入れてゆけばケ

アが可能でも、重いケースが二人、三人、時期を重ねて入所になると子ども同士の相互作用によって施設状況全体が一挙に不安定化し、その対処だけに追われるようになる。

児童相談所も多くの困難ケースを抱え、施設が新設されれば一気に子どもを委ねる動きとなるのは無理からぬが、未経験な新設施設を真に有効な社会資源へと育て上げてゆくための配慮とサポートが必要だろう。そのためには児童相談所と十分な協議連絡を欠かさない施設側の努力が重要になる。新設の準備段階から、見通しをもった協議が重ねられたうえ、開設後の連携に繋がってゆくことが望ましい。

施設には、暫定定数を避けねばならない、施設内学級の教員を確保しなければならないという経営的な問題があり、現在の力量や条件をこえた無理な受け入れをせざるをえない現実がある。しかし、この無理は、結果として、施設の治療機能の停滞と伸び悩みを招き、ときとして施設崩壊につながる不安定化や荒れすらもたらしている。そのしわ寄せを受けるのは、そこに生活する子どもたちなのである。

この問題は施設の内部努力では解決できない。これが新設施設に共通する難関である。新設施設の治療基盤を安定したものに育てあげ、有効性の高い治療資源として社会に活かしてゆくためには、予算措置や教員配置のシステムについて、子どもたちの側に立った顧慮や施策が福祉行政サイド、教育行政サイドに深く願われるところであろう。

8. 施設の居住構造

今回の調査では4施設を訪問したが、施設ごとにその建物の構造、部屋の配置、居室の構造、ダイニング、食堂、治療室、静養室、施設内学級の教室など設備のあり方に差異や特徴がある。新設に際して、施設ごとにさまざまな構想や工夫がなされたことがわかる。立地条件や予算などの制約から思うにまかせなかった面も多々あったにちがいないが、それぞれの施設の個性が浮き彫りになっている。病院や学校の構造がどこもほぼ一様なのに較べると、変化に富んでいる。

ある意味で「実験的」ともいえ、それぞれの使い勝手や長所短所、治療性、子どもたちにとっての居住性のいかに全施設が持ち寄って検討をしてゆくなら、これから新設される施設への有益な参考になるにちがいない。子どもたちの日々の生活空間である建物や居室の構造のいかに、子どもたちを護り育てるうえで大きな意味をもっており、なおざりにはできない。

さらに、幼児期から思春期までの子どもたちをどんな構成比で受け入れるのか、どんなかたちの施設ケアを考えるのかといった人員構成上の問題や治療構造上の問題と、どのような建物や部屋を工夫するかという建築構造上の問題とは密接に関連している。建物のハードとしての構造が、施設運営やケアのあり方、子どもたちの行動の仕方、スタッフの動きやすさ等のソフト面を規定するところがあり、新施設開設に際してどんな建物設備を構想するかはきわめて重要である。これらの視点からの調査研究も、今後必要かと思われる。

まとめ

ケースカンファレンスを通して浮かび上がったのは、各施設のスタッフの真摯な努力と模索であった。ここでは問題点を探るほうにウエイトを置いたが、そうした努力や模索がよき実りを上げる方途

を探るためである。個々の施設、個々のスタッフの努力と模索に終わらず、それらが全体の大きな力となることが望ましい。そのためには情緒障害児短期治療施設の共同ケアにおいて核となるべき基本的な共通理解がまとめられ、全体で共有され、それが個々の施設やスタッフの経験と工夫によってさらに発展してゆくことがたいせつである。今後の課題だろう。

表1 各施設の特徴

	17施設	A園	B園	C園	D園	E園
児童数	564	44	20	33	27	13
入所児平均年齢	11.0	8.8	11.3	11.8	12.8	12.9
性別（男子の比率）	59.8%	52.3%	55.0%	63.6%	44.4%	38.5%
被虐待児の比率	52.3%	75.0%	65.0%	66.7%	44.4%	76.9%
虐待の種別比率						
身体的虐待	64.4%	51.5%	53.9%	50.0%	33.3%	50.0%
性的虐待	6.1%	6.0%	7.7%	9.1%	16.7%	40.0%
ネグレクト	53.6%	48.5%	46.2%	63.6%	41.6%	50.0%
心理的虐待	38.6%	42.4%	38.5%	31.8%	66.6%	30.0%

表2 領域ごとの該当率

領 域	17施設平均	A園	B園	C園	D園	E園
睡眠	56.6%	78.8%	69.2%	40.9%	25.0%	20.0%
A 6 特に問題なし						
食欲	54.9%	57.6%	61.5%	45.5%	58.3%	20.0%
B 9 特に問題なし						
排泄	69.8%	54.5%	53.8%	77.3%	58.3%	80.0%
C 7 特に問題なし						
身体感覚	62.4%	75.8%	76.9%	54.5%	41.7%	70.0%
D 6 特に問題なし						
身体運動	80.7%	87.9%	84.6%	68.2%	83.3%	90.0%
E 4 特に問題なし						
身体成長	69.5%	66.7%	92.3%	63.6%	66.7%	90.0%
F 2 特に問題なし						
情動の傾向	6.4%	12.1%	23.1%	4.5%	0.0%	0.0%
G 17 特に問題なし						
大人に対する態度	7.8%	9.1%	7.7%	4.5%	0.0%	0.0%
H 14 特に問題なし						
大人に対して目立つ行動	15.3%	21.2%	15.4%	22.7%	0.0%	0.0%
I 10 特に問題なし						
子どもに対する目立った行動	7.1%	18.2%	7.7%	4.5%	0.0%	0.0%
J 21 特に問題なし						
社会的なルールや約束	30.5%	30.3%	23.1%	31.8%	8.3%	20.0%
K 7 特に問題なし						
特定の大人との関係	49.2%	36.4%	30.8%	45.5%	16.7%	30.0%
L 1 持続的で安定						
特定の子どもの関係	28.8%	18.2%	15.4%	36.4%	0.0%	30.0%
M 1 持続的で安定						
自分自身に対する構え	11.2%	36.4%	7.7%	13.6%	0.0%	20.0%
N 8 特に問題なし						
認知能力と学習能力	36.6%	36.4%	15.4%	22.7%	0.0%	0.0%
O 1 知的に普通で、相応の学力						
O 2 知的に普通、それに比して学力が低い						
O 3 知的に遅れ、相応の学力						
O 4 知的に遅れ、それに比して学力が低い						
生活上の様子	43.1%	54.5%	53.8%	36.4%	25.0%	60.0%
P 12 特に問題なし						
いわゆる「問題行動」	35.9%	43.8%	15.4%	36.4%	16.7%	20.0%
Q 16 特に問題なし						
精神科領域の医学的ケア	35.3%	60.6%	7.7%	40.9%	16.7%	0.0%
T 7 必要がない						

表 3 - A A園の特徴

出現率 (%) の高い項目 (半数以上)

項目番号		入所時 (17施設平均)
M 3	他児と安定した関係が持ちにくい	60.6 (49.8)

表 3 - B B園の特徴

出現率 (%) の高い項目 (半数以上)

項目番号		入所時 (17施設平均)
G 7	注意持続困難	53.8 (37.3)
G 8	衝動的	53.8 (41.7)
H 8	職員に過度に接近、ベタベタ	53.8 (31.2)
I 1	職員の気を引く	53.8 (29.5)
J 7	他児に攻撃的	53.8 (33.6)
K 1	ルールが守れない	53.8 (37.6)
K 3	ルールを忘れてしまう	53.8 (24.4)
N 6	自信がない	69.2 (53.6)
N 7	自分のことで精一杯	61.5 (37.6)
O 2	知的に普通で学力が低い	69.2 (37.6)
Q11	施設内での盗み	53.8 (16.6)
T 1	常時精神医学的ケアを受けている	53.8 (12.2)
T 2	定期的に精神医学的経過観察	53.8 (8.5)

表 3 - C C園の特徴

出現率 (%) の高い項目 (半数以上)

項目番号		入所時 (17施設平均)
A 1	寝付きが悪い	50.0 (26.1)
N 6	自信がない	50.0 (53.6)

表3-D D園の特徴

出現率(%)の高い項目(半数以上)

項目番号		入所時(17施設平均)
A 1	寝付きが悪い	66.7 (26.1)
A 2	眠りが浅い	50.0 (18.3)
G 5	過敏	58.3 (15.6)
G 7	注意持続困難	66.7 (37.3)
G 8	衝動的	66.7 (41.7)
G 9	不自然なはしゃぎ	75.0 (32.9)
G 10	浮き沈み	58.3 (19.3)
G 15	こだわりの強さ	58.3 (15.6)
H 7	職員にうまく近づけない	58.3 (22.7)
H 9	職員に不安定な距離	50.0 (20.3)
I 4	職員に反発、攻撃	50.0 (23.1)
I 7	職員の顔を窺う	75.0 (38.6)
I 8	職員に対して両面的、依存と拒否	58.3 (29.2)
J 1	子どもの中で孤立	58.3 (31.2)
J 5	他児を妬む、嫉妬、恨む	58.3 (21.4)
J 6	他児にひがむ	58.3 (27.1)
J 17	他児に対して身勝手、傍若無人	50.0 (22.4)
K 1	ルールが守れない	58.3 (37.6)
L 3	職員と安定した関係が持ちにくい	83.5 (31.5)
M 3	他児と安定した関係が持ちにくい	100.0 (49.8)
N 1	自分に無関心、投げやり	58.3 (31.2)
N 3	自分の健康に無関心	50.0 (10.8)
N 4	未来への関心、希望なし	58.3 (20.3)
N 6	自信がない	91.7 (53.6)
O 2	知的に普通で学力が低い	50.0 (37.6)
Q 2	公共物への器物破壊	58.3 (18.6)
T 1	常時精神医学的ケアを受けている	50.0 (12.2)

表 3-E E園の特徴

出現率 (%) の高い項目 (半数以上)

項目番号		入所時 (17施設平均)
A 1	寝付きが悪い	80.0 (26.1)
G 4	不安	80.0 (18.6)
G 6	多動	50.0 (28.8)
G 7	注意持続困難	60.0 (37.3)
G 8	衝動的	70.0 (41.7)
G 9	不自然なはしゃぎ	50.0 (32.9)
G 10	浮き沈み	50.0 (19.3)
G 11	癩癩	50.0 (27.8)
G 16*	イライラ	50.0 (—)
H 3	職員に対する攻撃的態度	60.0 (27.8)
H 7	職員にうまく近づけない	50.0 (22.7)
H 8	職員に過度に接近、ベタベタ	50.0 (31.2)
H 9	職員に不安定な距離	50.0 (20.3)
I 1	職員の気を引く	60.0 (29.5)
I 4	職員に反発、攻撃	70.0 (23.1)
I 8	職員に対して両価的、依存と拒否	50.0 (29.2)
J 1	子どもの中で孤立	70.0 (31.2)
J 5	他児を妬む、嫉妬、恨む	60.0 (21.4)
J 6	他児にひがむ	50.0 (27.1)
K 1	ルールを守れない	60.0 (37.6)
K 2	反抗、反発からルールを破る	50.0 (15.3)
N 6	自信がない	80.0 (53.6)
O 3	知的に遅れ、相応の学力	50.0 (12.9)
Q 1	無断外出、無断外泊	50.0 (17.3)
Q 8	自傷	50.0 (6.8)
T 1	常時精神医学的ケアを受けている	50.0 (12.2)
Q 9	自殺企図	40.0 (2.0)
Q 12	喫煙	40.0 (4.4)

※ この項目は本調査で新たに加えたものである。従って17施設平均はない。

表4 領域別の出現率(%)の変化

(入所して半年以上経っている被虐待児のデータから)

領域	17施設平均		A園		B園		C園		D園		E園	
	入所時	現在	入所時	現在	入所時	現在	入所時	現在	入所時	現在	入所時	現在
睡眠												
A 6 特に問題なし	54.5%	73.6%	80.0%	80.0%	83.3%	100.0%	40.9%	50.0%	25.0%	50.0%	14.3%	28.6%
食欲												
B 9 特に問題なし	53.7%	65.9%	60.0%	70.0%	50.0%	66.7%	45.5%	54.5%	58.3%	58.3%	28.6%	28.6%
排泄												
C 7 特に問題なし	69.1%	80.5%	56.7%	76.7%	33.3%	66.7%	77.3%	95.5%	58.3%	75.0%	85.7%	71.4%
身体感覚												
D 6 特に問題なし	62.2%	71.5%	76.7%	76.7%	66.7%	66.7%	54.5%	63.6%	41.7%	41.7%	71.4%	57.1%
身体運動												
E 4 特に問題なし	79.7%	84.1%	90.0%	93.3%	66.7%	66.7%	68.2%	72.7%	83.3%	91.7%	100.0%	85.7%
身体成長												
F 2 特に問題なし	69.5%	75.2%	70.0%	80.0%	83.3%	100.0%	63.6%	63.6%	66.7%	66.7%	100.0%	85.7%
情動の傾向												
G 17 特に問題なし	5.3%	24.4%	13.3%	16.7%	16.7%	16.7%	4.5%	9.1%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%
大人に対する態度												
H 14 特に問題なし	6.5%	28.0%	10.0%	16.7%	0.0%	16.7%	4.5%	13.6%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%
大人に対して目立つ行動												
I 10 特に問題なし	14.2%	29.7%	23.3%	30.0%	0.0%	33.3%	22.7%	22.7%	0.0%	8.3%	0.0%	14.3%
子どもに対する目立った行動												
J 21 特に問題なし	5.7%	17.9%	20.0%	23.3%	0.0%	16.7%	4.5%	4.5%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%
社会的なルールや約束												
K 7 特に問題なし	29.7%	39.4%	33.3%	36.7%	33.3%	50.0%	31.8%	31.8%	8.3%	25.0%	28.6%	28.6%
特定の大人との関係												
L 1 持続的で安定	48.8%	67.5%	40.0%	63.3%	33.3%	100.0%	45.5%	72.7%	16.7%	50.0%	42.9%	57.1%
特定の子どもの関係												
M 1 持続的で安定	29.3%	42.7%	20.0%	40.0%	16.7%	33.3%	36.4%	54.5%	0.0%	16.7%	28.6%	28.6%
自分自身に対する構え												
N 8 特に問題なし	10.2%	23.6%	36.7%	40.0%	0.0%	33.3%	13.6%	18.2%	0.0%	16.7%	28.6%	28.6%
認知能力と学習能力												
O 1 知的に普通で、相応の学力	35.4%	37.8%	36.7%	36.7%	16.7%	33.3%	22.7%	40.9%	0.0%	8.3%	0.0%	14.3%
O 3 知的に遅れ、相応の学力	13.4%	14.2%	13.3%	16.7%	0.0%	0.0%	36.4%	36.4%	25.0%	16.7%	57.1%	57.1%
生活上の様子												
P 12 特に問題なし	40.7%	57.3%	60.0%	63.3%	33.3%	66.7%	36.4%	59.1%	25.0%	58.3%	71.4%	42.9%
いわゆる「問題行動」												
Q 16 特に問題なし	33.3%	41.5%	44.8%	36.7%	16.7%	16.7%	36.4%	31.8%	16.7%	33.3%	28.6%	28.6%
精神科領域の医学的ケア												
T 7 必要がない	36.2%	35.0%	66.7%	63.3%	0.0%	0.0%	40.9%	31.8%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%

表5-A A園の出現率(%)の変化

(入所時の出現率(%)が50%以上項目(表2)について、入所して半年以上経っている被虐待児のデータから)

項目番号		入所時(17施設平均)	現時点(17施設平均)
M3	他児と安定した関係が持ちにくい	56.7(51.6)	43.3(37.4)

表5-B B園の出現率(%)の変化

(入所時の出現率(%)が50%以上項目(表2)について、入所して半年以上経っている被虐待児のデータから)

項目番号		入所時(17施設平均)	現時点(17施設平均)
G7	注意持続困難	33.8(37.8)	16.7(26.0)
G8	衝動的	50.0(44.7)	33.3(27.6)
H8	職員に過度に接近、ベタベタ	83.8(29.3)	50.0(22.4)
I1	職員の気を引く	83.3(29.3)	33.3(18.3)
I2	職員に対して操作的	50.0(19.1)	50.0(13.4)
I3	職員に対する表裏ある態度	66.7(18.3)	50.0(15.9)
I6	職員を独り占めしようとする	66.7(22.8)	66.7(14.2)
J5	他児を妬む、嫉妬、恨む	66.7(23.6)	50.0(17.1)
J6	他児にひがむ	50.0(28.0)	50.0(19.9)
J7	他児に攻撃的	66.7(36.2)	50.0(13.4)
J10	他児と張り合う	50.0(17.9)	50.0(13.4)
J12	特定の子を独占しようとする	66.7(18.7)	50.0(11.8)
J15	他児の関心を物でつろうとする	50.0(7.3)	66.7(5.3)
J17	他児に対して身勝手、傍若無人	66.7(21.1)	66.7(19.1)
K1	ルールが守れない	50.0(39.0)	16.7(31.7)
K3	ルールを忘れてしまう	66.7(23.6)	0.0(15.4)
N1	自分に無関心、投げやり	50.0(32.1)	50.0(15.0)
N6	自信がない	83.3(54.9)	33.3(47.2)
N7	自分のことで精一杯	66.7(37.4)	16.7(27.2)
O2	知的に普通で学力が低い	66.7(38.6)	50.0(35.4)
Q11	施設内での盗み	66.7(17.5)	50.0(13.4)
T1	常時精神医学的ケアを受けている	83.3(13.8)	100.0(15.9)
T2	定期的に精神医学的経過観察	100.0(6.9)	83.3(8.9)

表5-C C園の出現率(%)の変化

(入所時の出現率(%)が50%以上項目(表2)について、入所して半年以上経っている被虐待児のデータから)

項目番号		入所時(17施設平均)	現時点(17施設平均)
A1	寝付きが悪い	50.0(26.4)	40.9(14.6)
N6	自信がない	50.0(54.9)	31.8(47.2)

表5-D D園の出現率(%)の変化

(入所時の出現率(%)が50%以上項目(表2)について、入所して半年以上経っている被虐待児のデータから)

項目番号		入所時(17施設平均)	現時点(17施設平均)
A 1	寝付きが悪い	66.7 (26.4)	41.7 (14.6)
A 2	眠りが浅い	50.0 (18.7)	25.0 (5.3)
G 5	過敏	58.3 (15.4)	25.0 (6.5)
G 7	注意持続困難	66.7 (37.8)	41.7 (26.0)
G 8	衝動的	66.7 (44.7)	50.0 (27.6)
G 9	不自然なはしゃぎ	75.0 (31.3)	50.0 (24.4)
G10	浮き沈み	58.3 (18.3)	33.3 (16.7)
G15	こだわりの強さ	58.3 (17.5)	58.3 (15.0)
H 7	職員にうまく近づけない	58.3 (23.2)	41.7 (12.2)
H 8	職員に過度に接近、ベタベタ	41.7 (29.3)	50.0 (22.4)
H 9	職員に不安定な距離	50.0 (20.3)	41.7 (19.1)
I 4	職員に反発、攻撃	50.0 (23.6)	33.3 (13.4)
I 7	職員の顔を窺う	75.0 (38.6)	66.7 (24.8)
I 8	職員に対して両価的、依存と拒否	58.3 (30.1)	58.3 (32.1)
J 1	子どもの中で孤立	58.3 (33.3)	33.3 (16.7)
J 5	他児を妬む、嫉妬、恨む	58.3 (23.6)	41.7 (17.1)
J 6	他児にひがむ	58.3 (28.0)	58.3 (19.9)
J17	他児に対して身勝手、傍若無人	50.0 (21.1)	33.3 (19.1)
K 1	ルールが守れない	58.3 (39.0)	50.0 (31.7)
L 3	職員と安定した関係が持ちにくい	83.3 (33.3)	41.7 (16.3)
M 3	他児と安定した関係が持ちにくい	100.0 (51.6)	83.3 (37.4)
N 1	自分に無関心、投げやり	58.3 (32.1)	25.0 (15.0)
N 3	自分の健康に無関心	50.0 (11.0)	8.3 (7.7)
N 4	未来への関心、希望なし	58.3 (22.8)	8.3 (11.4)
N 6	自信がない	91.7 (54.9)	83.3 (47.2)
O 2	知的に普通で学力が低い	50.0 (38.6)	41.7 (35.4)
Q 2	公共物への器物破壊	58.3 (20.3)	33.3 (17.9)
T 1	常時精神医学的ケアを受けている	50.0 (13.8)	50.0 (15.9)

表5-E E園の出現率(%)の変化

(入所時の出現率(%)が50%以上項目(表2)について、入所して半年以上経っている被虐待児のデータから)

項目番号		入所時(17施設平均)	現時点(17施設平均)
A 1	寝付きが悪い	85.7 (26.4)	14.3 (14.6)
G 4	不安	50.0 (19.5)	71.4 (5.7)
G 6	多動	42.9 (30.1)	42.9 (15.4)
G 7	注意持続困難	57.1 (37.8)	28.6 (26.0)
G 8	衝動的	57.1 (44.7)	28.6 (27.6)
G 9	不自然なはしゃぎ	42.9 (31.3)	42.9 (24.4)
G10	浮き沈み	57.1 (18.3)	42.9 (16.7)
G11	癩癩	42.9 (30.1)	28.6 (20.3)
G16*	イライラ	42.9 (—)	28.6 (—)
H 3	職員に対する攻撃的態度	57.1 (30.1)	42.9 (23.6)
H 7	職員にうまく近づけない	42.9 (23.2)	42.9 (12.2)
H 8	職員に過度に接近、ベタベタ	57.1 (29.3)	57.1 (22.4)
H 9	職員に不安定な距離	57.1 (20.3)	42.9 (19.1)
I 1	職員の気を引く	71.4 (29.3)	71.4 (18.3)
I 4	職員に反発、攻撃	71.4 (23.6)	28.6 (16.7)
I 8	職員に対して両価的、依存と拒否	71.4 (30.1)	42.9 (32.1)
J 1	子どもの中で孤立	71.4 (33.3)	42.9 (16.7)
J 5	他児を妬む、嫉妬、恨む	57.1 (23.6)	42.9 (17.1)
J 6	他児にひがむ	42.9 (28.0)	42.9 (19.9)
K 1	ルールを守れない	57.1 (39.0)	42.9 (31.7)
K 2	反抗、反発からルールを破る	42.9 (16.7)	42.9 (11.8)
N 6	自信がない	71.4 (54.9)	42.9 (47.2)
O 3	知的に遅れ、相応の学力	57.1 (13.4)	57.1 (14.2)
Q 1	無断外出、無断外泊	57.1 (18.3)	57.1 (9.8)
Q 8	自傷	57.1 (6.1)	57.1 (3.7)
Q 9	自殺企図	57.1 (1.6)	57.1 (1.6)
Q12	喫煙	42.9 (4.5)	57.1 (6.5)
T 1	常時精神医学的ケアを受けている	42.9 (13.8)	42.9 (15.9)

※ この項目は本調査で新たに加えたものである。従って17施設平均はない。

表6-1 領域ごとの改善

項 目	17施設平均			A園		B園		C園		D園		E園	
	改善数	入所時 問題あり	%	改善数	入所時 問題あり								
睡眠													
A 6 特に問題なし	52	112	46.4	4	6	1	1	5	13	4	9	1	6
食欲													
B 9 特に問題なし	39	114	34.2	4	12	1	3	3	12	0	5	1	5
排泄													
C 7 特に問題なし	31	76	40.8	7	13	3	4	4	5	2	5	0	1
身体感覚													
D 6 特に問題なし	25	93	26.9	2	7	0	2	2	10	0	7	0	2
身体運動													
E 4 特に問題なし	14	50	28.0	1	3	0	2	1	7	1	2	0	0
身体成長													
F 2 特に問題なし	17	75	22.7	3	9	1	1	1	8	0	4	0	0
情動の傾向													
G 17 特に問題なし	50	233	21.5	3	26	0	5	1	21	1	12	0	7
大人に対する態度													
H 14 特に問題なし	55	230	23.9	2	27	1	6	2	21	1	12	0	7
大人に対して目立つ行動													
I 10 特に問題なし	42	211	19.9	3	23	2	6	4	17	1	12	1	7
子どもに対する目立った行動													
J 21 特に問題なし	34	232	14.7	2	24	1	6	1	21	1	12	0	7
社会的なルールや約束													
K 7 特に問題なし	26	173	15.0	2	20	1	4	3	15	2	11	0	5
特定の大人との関係													
L 1 持続的で安定	49	126	38.9	8	18	4	4	6	12	4	10	1	4
特定の子どもの関係													
M 1 持続的で安定	37	174	21.3	6	24	1	5	4	14	2	12	0	5
自分自身に対する構え													
N 8 特に問題なし	34	221	15.4	3	19	2	6	4	19	2	12	1	5
認知能力と学習能力													
O 1 知的に普通で、相応の学力	10	159	6.3	1	19	1	5	4	17	1	12	1	7
O 3 知的に遅れ、相応の学力	2	33	6.1	1	4	0	0	1	8	1	3	0	4
生活上の様子													
P 12 特に問題なし	43	146	29.5	2	12	2	4	5	14	4	9	0	2
いわゆる「問題行動」													
Q 16 特に問題なし	25	164	15.2	1	16	0	5	3	14	2	10	0	5
精神科領域の医学的ケア													
T 7 必要がない	7	157	4.5	3	10	0	6	2	13	0	10	0	7

表6-2 領域ごとの悪化

項 目	17施設平均			A園		B園		C園		D園		E園	
	悪化数	入所時 問題なし	%	悪化数	入所時 問題なし								
睡眠													
A 6 特に問題なし	5	134	3.7	4	24	0	5	3	9	1	3	0	1
食欲													
B 9 特に問題なし	9	132	6.8	1	18	0	3	1	10	0	7	1	2
排泄													
C 7 特に問題なし	4	170	2.4	1	17	1	2	0	17	0	7	1	6
身体感覚													
D 6 特に問題なし	2	153	1.3	2	23	0	4	0	12	0	5	1	5
身体運動													
E 4 特に問題なし	3	196	1.5	0	27	0	4	0	15	0	10	1	7
身体成長													
F 2 特に問題なし	3	171	1.8	0	21	0	5	1	14	0	8	1	7
情動の傾向													
G 17 特に問題なし	3	13	23.1	2	4	0	1	0	1	0	0	0	0
大人に対する態度													
H 14 特に問題なし	2	16	12.5	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0
大人に対して目立つ行動													
I 10 特に問題なし	4	35	11.4	1	7	0	0	4	5	0	0	0	0
子どもに対する目立った行動													
J 21 特に問題なし	4	14	28.6	1	6	0	0	1	1	0	0	0	0
社会的なルールや約束													
K 7 特に問題なし	2	73	2.7	1	10	0	2	3	7	0	1	0	2
特定の大人との関係													
L 1 持続的で安定	3	120	2.5	1	12	0	2	0	10	0	2	0	3
特定の子どもの関係													
M 1 持続的で安定	4	72	5.6	0	6	0	1	0	8	0	0	0	2
自分自身に対する構え													
N 8 特に問題なし	1	25	4.0	2	11	0	0	3	3	0	0	1	2
認知能力と学習能力													
O 1 知的に普通で、相応の学力	4	87	4.6	1	11	0	1	0	5	0	0	0	0
O 3 知的に遅れ、相応の学力	4	213	1.9	2	26	0	6	1	14	0	9	0	3
生活上の様子													
P 12 特に問題なし	2	100	2.0	1	18	0	2	0	8	0	3	2	5
いわゆる「問題行動」													
Q 16 特に問題なし	5	82	6.1	3	13	0	1	4	8	0	2	0	2
精神科領域の医学的ケア													
T 7 必要がない	10	89	11.2	4	20	0	0	4	9	0	2	0	0

表7-1 項目別改善

項 目	17施設平均			A園		B園		C園		D園		E園	
	改善数	入所時 問題あり	%	改善数	入所時 問題あり								
A 睡眠													
A 1 寝付きが悪い	36	65	55.4	3	4					4	8	5	6
A 2 眠りが浅い	34	46	73.9	3	3			4	6	3	6	2	4
A 4 夜泣き	12	14	85.7					3	3				
A 5 悪夢	21	24	87.5					2	3				
B 食欲													
B 1 拒食	15	21	71.4					2	2			2	2
B 2 過食	14	22	63.6	3	6								
B 3 貪り食い	11	19	57.9	2	2			4	6	4	4		
B 4 偏食	17	30	56.7					3	5				
B 5 過度の味付け	5	25	20.0					2	3				
C 排泄													
C 2 遺尿	16	22	72.7	3	4								
C 3 夜尿	23	40	57.5	5	6					2	4		
C 4 トイレの他所で排泄	10	14	71.4					2	2				
E 身体運動													
E 2 微細な運動機能のおくれ	9	27	33.3	2	2								
G 情動の傾向													
G 1 抑鬱	21	37	56.8					4	6	2	2	2	3
G 2 不活発	56	74	75.7	2	3			4	5	3	3		
G 3 悲哀	24	29	82.8			2	2	6	6				
G 4 不安	37	48	77.1			2	2	7	9	2	4		
G 5 過敏	23	38	60.5					3	5	4	7		
G 6 多動、落ち着きのなさ	36	74	48.7			2	2			2	4		
G 7 注意持続困難	30	93	32.3									2	4
G 8 衝動的	47	110	42.7									2	4
G 11 癩癧	31	74	41.9				2	4					
G 12 キレル	16	30	53.3				4	4		4	5		
G 13 意識の解離	15	24	62.5	2	4								
G 14 感情の解離	11	23	47.8	2	2								
G 16 イライラ	.	.	.	2	3					2	3		
H 大人に対する態度													
H 2 拒否	21	25	84.0							2	2		
H 3 攻撃	33	74	44.6				4	4					
H 4 凍り付き	14	20	70.0				2	2		2	3		
H 5 表面的	36	58	62.1				2	3	4	5	2	3	2
H 6 オドオド	32	44	72.7						3	3			
H 7 うまく近づけない	35	57	61.4	3	5	2	2	3	5				
H 8 過度に接近、ベタベタ	28	72	38.9					3	6				
H 9 不安定な距離	21	50	42.0	3	6	3	4	3	6				
H 10 過依存、見捨てられ不安	18	32	56.3	2	4	3	3						
H 11 両極端	9	18	50.0			2	2	2	3				
H 12 いい子に振る舞う	25	53	47.2					4	4				
H 13 身勝手	19	56	33.9					2	4				
I 大人に対して目立つ行動													
I 1 気を引く	34	72	47.2			3	5						
I 2 操作的	17	47	36.2	2	2								
I 3 表裏のある態度	12	45	26.7					5	8				
I 4 反発、攻撃	27	58	46.6			2	4					3	5
I 5 逆撫で	24	56	42.9			2	4						
I 6 独り占め	26	56	46.4									2	4
I 7 顔色を窺う	44	95	46.3					4	4				
I 8 両価的、依存と拒否	20	74	27.0			2	2						
I 9 過剰な好意、サービス	10	34	29.4					4	6				

表 7-2 項目別改善

項 目	17施設平均			A園		B園		C園		D園		E園	
	改善数	入所時 問題あり	%	改善数	入所時 問題あり								
J 子どもに対する目立った行動													
J 1 孤立	49	82	59.8	3	5	2	2	6	8	4	7		
J 3 苛める	18	46	39.1	2	3								
J 4 苛められ	35	67	52.2	5	10	2	2			2	2		
J 7 攻撃的、他の子に	31	89	34.8							3	4		
J 12 独占欲、物や人	19	46	41.3					2	4				
J 14 依存的、他の子に	8	18	44.4					2	4				
J 15 物で関心を釣る	8	18	44.4			2	2	2	2				
J 16 逆撫で	17	54	31.5							2	3		
J 20 性的遊び	8	13	61.5					2	3				
K 社会的なルールや約束													
K 1 守れず、コントロールできない	32	96	33.3			2	3	4	8				
K 2 反抗、反発から破る	21	41	51.2			2	3						
K 3 忘れる、注意されても	21	58	36.2			4	4			3	4		
K 4 a 責めを避けようとして嘘	19	48	39.6					2	4				
K 4 c 空想の混じった嘘	5	16	31.3			2	2						
K 5 強迫的にこだわる	4	13	30.8					2	2				
L 特定の大人との関係													
L 2 一定しない	15	30	50.0	2	4	3	3	4	5				
L 3 関係を持ち難い	44	82	53.7	9	11					5	10		
M 特定の子どもとの関係													
M 2 一定しない	17	37	46.0					4	7				
N 自分自身に対する構え													
N 1 自分に無関心、投げやり	50	79	63.3	3	5			5	9	4	7		
N 2 自分の外見や人目に無関心	25	55	45.5									2	2
N 3 健康に無関心	10	27	37.0					5	8	5	6		
N 4 未来への関心、希望なし	32	56	57.1							6	7		
N 5 好かれることを放棄	34	50	68.0					3	4	3	3		
N 6 自信がない	36	135	26.7			3	5						
N 7 自分のことで精一杯	30	92	32.6			3	4						
O 認知能力と学習能力													
O 2 知的に普通で、学力が低い	13	95	13.7					3	4				
P 生活上の様子													
P 1 食事中落ち着かない	35	63	55.6	3	5					3	4		
P 2 だらだら食べる	20	51	39.2					3	6				
P 4 入浴中背中を流さない	6	10	60.0							2	2		
P 6 生理の始末ができない	1	6	16.7							3	3		
P 8 トイレでお尻を拭かない	8	12	66.7	2	2								
P 10 時計が読めない	11	25	44.0	2	3			2	2				
Q いわゆる「問題行動」													
Q 1 無断外出、無断外泊	26	45	57.8	3	6								
Q 8 自傷行為	9	15	60.0					2	2				
Q 14 性的な逸脱行為	10	23	43.5	3	4			3	4	2	2		
T 精神科領域の医学的ケア													
T 2 定期的に経過観察	3	17	17.7	2	3			2	3				
T 6 職員が指導を受けたい	4	8	50.0					3	4				

表 8 項目別悪化

項 目		17施設平均			A園		B園		C園		D園		E園	
		悪化数	入所時 問題なし	%	悪化数	入所時 問題なし								
G	情動の傾向													
G 4	不安	3	198	1.52									5	7
G 9	不自然なはしゃぎ	13	169	7.69					5	18				
H	大人に対する態度													
H 3	攻撃	17	172	9.88					4	16				
H11	両極端	6	228	2.63	4	26			4	19				
I	大人に対して目立つ行動													
I 1	気を引く	7	174	4.02					4	14				
I 3	表裏のある態度	6	201	2.99	5	24								
I 4	反発、攻撃	10	188	5.32					5	15				
J	子どもに対する目立った行動													
J 4	苛められ	5	179	2.79					3	15				
J 7	攻撃的、他の子に	17	157	10.83	5	25			6	16				
K	社会的なルールや約束													
K 1	守れず、コントロールできない	14	150	9.33	4	16								
K 2	反抗、反発から破る	9	205	4.39					6	17				
M	特定の子どもとの関係													
M 3	関係を持ち難い	6	119	5.04										
Q	いわゆる「問題行動」													
Q 2	公共物への器物破壊	3	196	1.53	5	25			4	13				

付表 項目別悪化（悪化率10%以上のもの）

項 目	17施設平均			A園		B園		C園		D園		E園	
	悪化数	入所時 問題なし	%	悪化数	入所時 問題なし								
A 睡眠													
A 1 寝付きが悪い	7	181	3.87					2	11				
A 2 眠りが浅い	1	200	0.50					2	16				
G 情動の傾向													
G 1 抑鬱	4	209	1.91					2	16				
G 4 不安	3	198	1.52									5	7
G 9 不自然なはしゃぎ	13	169	7.69					5	18				
G 10 浮き沈み	13	201	6.47					3	16				
G 11 痛癢	7	172	4.07	4	24			2	15				
G 15 拘り	7	203	3.45	3	25								
G 16 イライラ	.	.	.					3	19				
H 大人に対する態度													
H 3 攻撃	17	172	9.88					4	16				
H 7 うまく近づけない	8	189	4.23					3	17				
H 8 過度に接近、ベタベタ	11	174	6.32	3	21					2	7		
H 9 不安定な距離	18	196	9.18	4	24			2	16				
H 10 過依存・見捨てられ不安	7	214	3.27					3	20				
H 11 両極端	6	228	2.63	4	26			4	19				
H 13 身勝手	9	190	4.74					2	18				
I 大人に対して目立つ行動													
I 1 気を引く	7	174	4.02					4	14				
I 3 表裏のある態度	6	201	2.99	5	24			2	14				
I 4 反発、攻撃	10	188	5.32					5	15				
I 6 独り占め	5	190	2.63	3	27			2	18				
I 8 両価的、依存と拒否	25	172	14.53	3	23					2	5		
I 10 特になし	4	35	11.43					4	5				
J 子どもに対する目立った行動													
J 2 すぐに喧嘩をする	4	153	2.61	4	24								
J 3 苛める	7	200	3.50	3	27			3	21				
J 4 苛められ	5	179	2.79					3	15				
J 5 妬み、嫉妬、恨む	6	188	3.19	3	28								
J 6 僻み	7	177	3.95					2	20				
J 7 攻撃的、他の子に	17	157	10.83	5	25			6	16				
J 8 支配的	11	205	5.37					3	17				
J 10 張り合う	7	202	3.47	4	27								
J 20 性的遊び	8	233	3.43					2	19				
K 社会的なルールや約束													
k 1 守れず、コントロールできない	14	150	9.33	4	16			2	14				
K 2 反抗、反発から破る	9	205	4.39					6	17				
K 3 忘れる、注意されても	1	188	0.53					2	19				
K 4 a 責めを避けようとして嘘	4	197	2.03	3	27								
K 6 無頓着	1	212	0.47	3	28								
L 特定の大人との関係													
L 2 一定しない	6	216	2.78	3	26								
M 特定の子どもとの関係													
M 2 一定しない	19	209	9.09	3	25								
M 3 関係を持ち難い	6	119	5.04					3	17				
N 自分自身に対する構え													
N 1 自分に無関心、投げやり	8	167	4.79	4	25								
N 6 自信がない	17	111	15.32	2	18								
Q いわゆる「問題行動」													
Q 1 無断外出、無断外泊	5	201	2.49	3	23								
Q 2 公共物への器物破壊	3	196	1.53	5	25			4	13				
Q 7 他の子に怪我させない暴力	7	175	4.00	3	21								
Q 8 自傷行為	3	231	1.30	3	25								
Q 10 施設外での盗み万引き	5	219	2.28	3	25								
T 精神科領域の医学的ケア													
T 1 医常時 常時	8	212	3.77					2	20				
T 5 助言 職員が指導助言を受けている	8	174	4.60					2	20				
T 6 助言希 職員が指導を受けたい	6	238	2.52					3	18				

表9-A-1 A園 リスクアセスメントの該当率

該当率（度数）				該当率（度数）					
		被虐待児（32名）		非（12名）		被虐待児（32名）		非（12名）	
1. 傷の程度	生命/重度	9.4%（3）	0.0%（0）	中度	21.9%（7）	0.0%（0）			
	軽度	3.1%（1）	0.0%（0）	不明	25.0%（8）	0.0%（0）			
部位	頭部	12.5%（4）	0.0%（0）	顔面	12.5%（4）	0.0%（0）			
	性器	6.3%（2）	0.0%（0）	頸部	0.0%（0）	0.0%（0）			
	内蔵	3.1%（1）	0.0%（0）	臀部	0.0%（0）	0.0%（0）			
	上肢	3.1%（1）	0.0%（0）	下肢	3.1%（1）	0.0%（0）			
状態	血腫	3.1%（1）	0.0%（0）	骨折	6.3%（2）	0.0%（0）			
	裂傷	3.1%（1）	0.0%（0）	火傷	9.4%（3）	0.0%（0）			
	打撲	6.3%（2）	0.0%（0）	脱水症状	3.1%（1）	0.0%（0）			
	あざ	9.4%（3）	0.0%（0）	みみずばれ	6.3%（2）	0.0%（0）			
	皮膚疾患	0.0%（0）	0.0%（0）						
2. 虐待の継続	はい	68.8%（22）	8.3%（1）	やや	9.4%（3）	0.0%（0）			
	いいえ	6.3%（2）	66.7%（8）	不明	15.6%（5）	0.0%（0）			
	繰り返し	50.0%（16）	0.0%（0）	常習	18.8%（6）	8.3%（1）			
	子を何日も放置する	9.4%（3）	0.0%（0）						
3. 虐待歴	はい	31.3%（10）	8.3%（1）	やや	3.1%（1）	0.0%（0）			
	いいえ	50.0%（16）	66.7%（8）	不明	15.6%（5）	0.0%（0）			
	入院	9.4%（3）	0.0%（0）	施設歴	9.4%（3）	8.3%（1）			
4. 性的虐待	はい	6.3%（2）	0.0%（0）	やや	6.3%（2）	0.0%（0）			
	いいえ	78.1%（25）	75.0%（9）	不明	9.4%（3）	0.0%（0）			
	擬	3.1%（1）	0.0%（0）	性病	0.0%（0）	0.0%（0）			
	妊娠等	0.0%（0）	0.0%（0）						
5. 関係機関からの情報	はい	59.4%（19）	8.3%（1）	やや	15.6%（5）	0.0%（0）			
	いいえ	18.8%（6）	66.7%（8）	不明	0.0%（0）	0.0%（0）			
	医療	9.4%（3）	0.0%（0）	警察	0.0%（0）	0.0%（0）			
	保健	0.0%（0）	0.0%（0）	学校	15.6%（5）	8.3%（1）			
	保健所	3.1%（1）	0.0%（0）	福祉事務所	12.5%（4）	0.0%（0）			
	民生児童委員	6.3%（2）	0.0%（0）	再三の近隣報告	15.6%（5）	0.0%（0）			
6. 身体状態（子ども）	はい	40.6%（13）	25.0%（3）	やや	12.5%（4）	8.3%（1）			
	いいえ	43.8%（14）	50.0%（6）	不明	3.1%（1）	0.0%（0）			
	障害	3.1%（1）	0.0%（0）	持病	0.0%（0）	8.3%（1）			
	発達遅れ	31.3%（10）	16.7%（2）	発育不全	6.3%（2）	0.0%（0）			
	アレルギー体質	18.8%（6）	16.7%（2）						
7. 精神的状態（子ども）	はい	65.6%（21）	33.3%（4）	やや	25.0%（8）	8.3%（1）			
	いいえ	6.3%（2）	33.3%（4）	不明	3.1%（1）	8.3%（1）			
	不安	25.0%（8）	25.0%（3）	恐れ	21.9%（7）	0.0%（0）			
	鬱的	3.1%（1）	0.0%（0）	チック	6.3%（2）	0.0%（0）			
	脱毛	3.1%（1）	8.3%（1）	夜尿	15.6%（5）	8.3%（1）			
	遺尿	6.3%（2）	8.3%（1）	異食	3.1%（1）	0.0%（0）			
	無表情	3.1%（1）	16.7%（2）	攻撃的	31.3%（10）	8.3%（1）			
	暗い表情	15.6%（5）	8.3%（1）						

表9-A-2 A園 リスクアセスメントの該当率

該当率（度数）				該当率（度数）			
被虐待児（32名）			非（12名）	被虐待児（32名）			非（12名）
8. 日常的状态	はい	34.4%（11）	25.0%（3）	やや	15.6%（5）	8.3%（1）	
（子ども）	いいえ	43.8%（14）	50.0%（6）	不明	6.3%（2）	0.0%（0）	
	衣食住の監護なし	9.4%（3）	0.0%（0）	非衛生、不潔	18.8%（6）	16.7%（2）	
	医療の放置	6.3%（2）	0.0%（0）	監督不十分	28.1%（9）	16.7%（2）	
9. 問題行動	はい	28.1%（9）	50.0%（6）	やや	34.4%（11）	8.3%（1）	
（子ども）	いいえ	25.0%（8）	25.0%（3）	不明	12.5%（4）	0.0%（0）	
	暴力	3.1%（1）	25.0%（3）	盗み	18.8%（6）	16.7%（2）	
	家出	6.3%（2）	16.7%（2）	虚言	12.5%（4）	0.0%（0）	
	性的逸脱	6.3%（2）	0.0%（0）	自傷行為	3.1%（1）	0.0%（0）	
	深夜徘徊	3.1%（1）	0.0%（0）	怠学	9.4%（3）	33.3%（4）	
10. 意思・気持ち	はい	31.3%（10）	8.3%（1）	やや	21.9%（7）	8.3%（1）	
（子ども）	いいえ	28.1%（9）	58.3%（7）	不明	12.5%（4）	0.0%（0）	
	親を嫌う	21.9%（7）	8.3%（1）	帰りがらない	21.9%（7）	0.0%（0）	
	アンビバレントな気持ち	18.8%（6）	8.3%（1）				
11. 精神的状态	はい	34.4%（11）	16.7%（2）	やや	3.1%（1）	8.3%（1）	
（養育者）	いいえ	34.4%（11）	50.0%（6）	不明	28.1%（9）	16.7%（2）	
	鬱的	6.3%（2）	8.3%（1）	精神症状	21.9%（7）	16.7%（2）	
	通院	12.5%（4）	0.0%（0）	服薬	3.1%（1）	0.0%（0）	
	疑いはあるが通院歴なし	0.0%（0）	0.0%（0）				
12. 性格的問題	はい	59.4%（19）	8.3%（1）	やや	18.8%（6）	33.3%（4）	
（養育者）	いいえ	3.1%（1）	41.7%（5）	不明	15.6%（5）	16.7%（2）	
	衝動的	25.0%（8）	0.0%（0）	未熟	15.6%（5）	8.3%（1）	
	攻撃的	31.3%（10）	0.0%（0）	偏り	18.8%（6）	8.3%（1）	
	共感性欠如	12.5%（4）	8.3%（1）				
13. アルコール／	はい	3.1%（1）	8.3%（1）	やや	0.0%（0）	8.3%（1）	
薬物（養育者）	いいえ	37.5%（12）	50.0%（6）	不明	56.3%（18）	33.3%（4）	
	依存	0.0%（0）	0.0%（0）	酔うと暴力	0.0%（0）	0.0%（0）	
				覚醒剤等乱用の疑い	0.0%（0）	8.3%（1）	
14. 被虐待歴	はい	15.6%（5）	0.0%（0）	やや	9.4%（3）	8.3%（1）	
（養育者）	いいえ	28.1%（3）	58.3%（7）	不明	46.9%（15）	33.3%（4）	
	被虐待歴	9.4%（3）	0.0%（0）	愛されなかった思い	9.4%（3）	8.3%（1）	
15. 子感情／態度	はい	15.6%（5）	34.6%（45）	やや	9.4%（3）	8.3%（1）	
	いいえ	34.4%（11）	58.3%（7）	不明	34.4%（11）	33.3%（4）	
	子ども嫌い	9.4%（3）	0.0%（0）	産まなければ	3.1%（1）	0.0%（0）	
	アンビバレントな気持ち	3.1%（1）	0.0%（0）				
16. 虐待自覚なし	はい	46.9%（15）	8.3%（1）	やや	12.5%（4）	0.0%（0）	
	いいえ	25.0%（8）	41.7%（5）	不明	12.5%（4）	25.0%（3）	
	問題意識なし	31.3%（10）	8.3%（1）	体罰容認	3.1%（1）	0.0%（0）	
	しつけ主張	21.9%（7）	0.0%（0）				

表9-A-3 A園 リスクアセスメントの該当率

該当率（度数）				該当率（度数）			
被虐待児（32名）			非（12名）	被虐待児（32名）			非（12名）
17. 養育意欲／能力	はい	31.3%（10）	50.0%（6）	やや	21.9%（7）	16.7%（2）	
	いいえ	31.3%（10）	25.0%（3）	不明	15.6%（5）	8.3%（1）	
	意欲なし	15.6%（5）	33.3%（4）	能力低下	9.4%（3）	25.0%（3）	
	知的障害	9.4%（3）	8.3%（1）				
18. 養育知識	はい	62.5%（20）	16.7%（2）	やや	15.6%（5）	25.0%（3）	
	いいえ	6.3%（2）	33.3%（4）	不明	15.6%（5）	25.0%（3）	
	若年親	9.4%（3）	8.3%（1）	知識不足	15.6%（5）	16.7%（2）	
	不適切	50.0%（16）	8.3%（1）	期待過剰	6.3%（2）	8.3%（1）	
19. 社会的サポート	はい	43.8%（14）	33.3%（4）	やや	9.4%（3）	33.3%（4）	
	いいえ	28.1%（9）	33.3%（4）	不明	15.6%（5）	0.0%（0）	
	孤立的	28.1%（9）	33.3%（4）	親族の対立	18.8%（6）	25.0%（3）	
	親族過干渉	3.1%（1）	0.0%（0）	保育なし	3.1%（1）	0.0%（0）	
	転居	0.0%（0）	0.0%（0）				
20. 夫婦問題	はい	59.4%（19）	25.0%（3）	やや	12.5%（4）	25.0%（3）	
	いいえ	15.6%（5）	50.0%（6）	不明	6.3%（2）	0.0%（0）	
	夫婦不和	15.6%（5）	0.0%（0）	夫婦間暴力	3.1%（1）	0.0%（0）	
	別居	12.5%（4）	0.0%（0）	家出	3.1%（1）	8.3%（1）	
	離婚問題	37.5%（12）	16.7%（2）				
21. 経済問題	はい	50.0%（16）	41.7%（5）	やや	3.1%（1）	16.7%（2）	
	いいえ	43.8%（14）	41.7%（5）	不明	0.0%（0）	0.0%（0）	
	ローン	12.5%（4）	8.3%（1）	生活苦	37.5%（12）	33.3%（4）	
	失業	18.8%（6）	0.0%（0）	転居	0.0%（0）	0.0%（0）	
	計画性欠如	12.5%（4）	8.3%（1）				
22. 生活環境	はい	34.4%（11）	33.3%（4）	やや	12.5%（4）	8.3%（1）	
	いいえ	43.8%（14）	58.3%（7）	不明	6.3%（2）	0.0%（0）	
	劣悪住居	15.6%（5）	25.0%（3）	安全への配慮なし	28.1%（9）	0.0%（0）	
23. 協力態度なし	はい	31.3%（10）	0.0%（0）	やや	6.3%（2）	16.7%（2）	
	いいえ	53.1%（17）	83.3%（10）	不明	9.4%（3）	0.0%（0）	
	機関介入拒否	21.9%（7）	0.0%（0）	接触困難	18.8%（6）	8.3%（1）	
24. 援助効果なし	はい	25.0%（8）	16.7%（2）	やや	21.9%（7）	25.0%（3）	
	いいえ	40.6%（13）	58.3%（7）	不明	9.4%（3）	0.0%（0）	
				調整期待できない	15.6%（5）	0.0%（0）	
25. 子を守る人なし	はい	40.6%（13）	25.0%（3）	やや	15.6%（5）	0.0%（0）	
	いいえ	34.4%（11）	75.0%（9）	不明	6.3%（2）	0.0%（0）	
				日常的に子供を危険から守る人がいない	18.8%（6）	16.7%（2）	
				危険な時子の逃げ場がない	25.0%（8）	0.0%（0）	

表 9-B-1 B園 リスクアセスメントの該当率

該当率（度数）				該当率（度数）			
被虐待児（13名）			非（7名）	被虐待児（13名）			非（7名）
1. 傷の程度	生命/重度	7.7%（1）	0.0%（0）	中度	15.4%（2）	0.0%（0）	
	軽度	15.4%（2）	0.0%（0）	不明	15.4%（2）	14.3%（1）	
部位	頭部	15.4%（2）	0.0%（0）	顔面	7.7%（1）	0.0%（0）	
	性器	0.0%（0）	0.0%（0）	頸部	0.0%（0）	0.0%（0）	
	内蔵	0.0%（0）	0.0%（0）	臀部	0.0%（0）	0.0%（0）	
	上肢	23.1%（3）	0.0%（0）	下肢	30.8%（4）	0.0%（0）	
	状態	血腫	0.0%（0）	0.0%（0）	骨折	0.0%（0）	0.0%（0）
	裂傷	15.4%（2）	0.0%（0）	火傷	0.0%（0）	0.0%（0）	
	打撲	15.4%（2）	0.0%（0）	脱水症状	0.0%（0）	0.0%（0）	
	あざ	15.4%（2）	0.0%（0）	みみずばれ	15.4%（2）	0.0%（0）	
	皮膚疾患	0.0%（0）	0.0%（0）				
2. 虐待の継続	はい	53.8%（7）	0.0%（0）	やや	15.4%（2）	14.3%（1）	
	いいえ	30.8%（4）	71.4%（5）	不明	0.0%（0）	0.0%（0）	
	繰り返し	38.5%（5）	0.0%（0）	常習	15.4%（2）	0.0%（0）	
	子を何日も放置する	7.7%（1）	0.0%（0）				
3. 虐待歴	はい	23.1%（3）	0.0%（0）	やや	15.4%（2）	14.3%（1）	
	いいえ	53.8%（7）	71.4%（5）	不明	7.7%（1）	0.0%（0）	
	入院	0.0%（0）	0.0%（0）	施設歴	15.4%（2）	0.0%（0）	
4. 性的虐待	はい	7.7%（1）	0.0%（0）	やや	0.0%（0）	0.0%（0）	
	いいえ	69.2%（9）	85.7%（6）	不明	15.4%（2）	0.0%（0）	
	擬	7.7%（1）	0.0%（0）	性病	0.0%（0）	0.0%（0）	
	妊娠等	0.0%（0）	0.0%（0）				
5. 関係機関からの 情報	はい	69.2%（9）	28.6%（2）	やや	7.7%（1）	0.0%（0）	
	いいえ	23.1%（3）	42.9%（3）	不明	0.0%（0）	0.0%（0）	
	医療	30.8%（4）	14.3%（1）	警察	30.8%（4）	0.0%（0）	
	保健	0.0%（0）	0.0%（0）	学校	53.8%（7）	14.3%（1）	
	保健所	0.0%（0）	0.0%（0）	福祉事務所	0.0%（0）	0.0%（0）	
	民生児童委員	0.0%（0）	0.0%（0）	再三の近隣報告	15.4%（2）	0.0%（0）	
	障害	15.4%（2）	0.0%（0）	持病	0.0%（0）	0.0%（0）	
	発達遅れ	0.0%（0）	14.3%（1）	発育不全	0.0%（0）	0.0%（0）	
	アレルギー体質	7.7%（1）	0.0%（0）				
6. 身体状態 (子ども)	はい	23.1%（3）	0.0%（0）	やや	0.0%（0）	14.3%（1）	
	いいえ	69.2%（9）	71.4%（5）	不明	7.7%（1）	0.0%（0）	
	障害	15.4%（2）	0.0%（0）	持病	0.0%（0）	0.0%（0）	
	発達遅れ	0.0%（0）	14.3%（1）	発育不全	0.0%（0）	0.0%（0）	
	アレルギー体質	7.7%（1）	0.0%（0）				
7. 精神的状態 (子ども)	はい	61.5%（8）	0.0%（0）	やや	0.0%（0）	28.6%（2）	
	いいえ	38.5%（5）	71.4%（5）	不明	0.0%（0）	0.0%（0）	
	不安	23.1%（3）	0.0%（0）	恐れ	7.7%（1）	0.0%（0）	
	鬱的	7.7%（1）	0.0%（0）	チック	0.0%（0）	0.0%（0）	
	脱毛	0.0%（0）	0.0%（0）	夜尿	23.1%（3）	0.0%（0）	
	遺尿	7.7%（1）	0.0%（0）	異食	7.7%（1）	0.0%（0）	
	無表情	7.7%（1）	0.0%（0）	攻撃的	30.8%（4）	0.0%（0）	
	暗い表情	7.7%（1）	0.0%（0）				

表 9-B-2 B園 リスクアセスメントの該当率

該当率（度数）				該当率（度数）			
被虐待児（13名）			非（7名）	被虐待児（13名）			非（7名）
8. 日常的状态	はい	46.2%（6）	14.3%（1）	やや	30.8%（4）	14.3%（1）	
（子ども）	いいえ	23.1%（3）	71.4%（5）	不明	0.0%（0）	0.0%（0）	
	衣食住の監護なし	7.7%（1）	0.0%（0）	非衛生、不潔	30.8%（4）	14.3%（1）	
	医療の放置	7.7%（1）	0.0%（0）	監督不十分	30.8%（4）	14.3%（1）	
9. 問題行動	はい	38.5%（5）	0.0%（0）	やや	38.5%（5）	14.3%（1）	
（子ども）	いいえ	23.1%（3）	85.7%（6）	不明	0.0%（0）	0.0%（0）	
	暴力	30.8%（4）	0.0%（0）	盗み	38.5%（5）	0.0%（0）	
	家出	15.4%（2）	0.0%（0）	虚言	23.1%（3）	0.0%（0）	
	性的逸脱	23.1%（6）	0.0%（0）	自傷行為	0.0%（0）	0.0%（0）	
	深夜徘徊	7.7%（1）	0.0%（0）	怠学	15.4%（2）	0.0%（0）	
10. 意思・気持ち	はい	46.2%（6）	0.0%（0）	やや	23.1%（3）	42.9%（3）	
（子ども）	いいえ	30.8%（4）	42.9%（3）	不明	0.0%（0）	14.3%（1）	
	親を嫌う	7.7%（1）	0.0%（0）	帰りがたらない	23.1%（3）	0.0%（0）	
	アンビバレントな気持ち	30.8%（4）	28.6%（2）				
11. 精神的状态	はい	46.2%（6）	14.3%（1）	やや	0.0%（0）	0.0%（0）	
（養育者）	いいえ	46.2%（6）	71.4%（5）	不明	7.7%（1）	14.3%（1）	
	鬱的	0.0%（0）	14.3%（1）	精神症状	15.4%（2）	0.0%（0）	
	通院	7.7%（1）	0.0%（0）	服薬	7.7%（1）	0.0%（0）	
	疑いはあるが通院歴なし	23.1%（3）	0.0%（0）				
12. 性格的問題	はい	53.8%（7）	0.0%（0）	やや	23.1%（3）	28.6%（2）	
（養育者）	いいえ	23.1%（3）	57.1%（4）	不明	0.0%（0）	14.3%（1）	
	衝動的	23.1%（3）	0.0%（0）	未熟	23.1%（3）	0.0%（0）	
	攻撃的	46.2%（6）	0.0%（0）	偏り	46.2%（6）	14.3%（1）	
	共感性欠如	15.4%（2）	0.0%（0）				
13. アルコール／	はい	38.5%（5）	0.0%（0）	やや	15.4%（2）	0.0%（0）	
薬物（養育者）	いいえ	38.5%（5）	100.0%（7）	不明	7.7%（1）	0.0%（0）	
	依存	7.7%（1）	0.0%（0）	酔うと暴力	38.5%（5）	0.0%（0）	
				覚醒剤等乱用の疑い	7.7%（1）	0.0%（0）	
14. 被虐待歴	はい	15.4%（2）	0.0%（0）	やや	15.4%（2）	14.3%（1）	
（養育者）	いいえ	23.1%（3）	71.4%（5）	不明	46.2%（6）	14.3%（1）	
	被虐待歴	15.4%（2）	0.0%（0）	愛されなかった思い	0.0%（0）	0.0%（0）	
15. 子感情／態度	はい	23.1%（3）	0.0%（0）	やや	15.4%（2）	0.0%（0）	
	いいえ	46.2%（6）	85.7%（6）	不明	15.4%（2）	14.3%（1）	
	子ども嫌い	7.7%（1）	0.0%（0）	産まなければ	7.7%（1）	0.0%（0）	
	アンビバレントな気持ち	15.4%（2）	0.0%（0）				
16. 虐待自覚なし	はい	53.8%（7）	0.0%（0）	やや	15.4%（2）	0.0%（0）	
	いいえ	15.4%（2）	100.0%（7）	不明	15.4%（2）	0.0%（0）	
	問題意識なし	38.5%（5）	0.0%（0）	体罰容認	0.0%（0）	0.0%（0）	
	しつけ主張	23.1%（3）	0.0%（0）				

表 9-B-3 B園 リスクアセスメントの該当率

該当率（度数）				該当率（度数）			
被虐待児（13名）			非（7名）	被虐待児（13名）			非（7名）
17. 養育意欲／能力	はい	53.8%（7）	0.0%（0）	やや	15.4%（2）	0.0%（0）	
	いいえ	30.8%（4）	85.7%（6）	不明	0.0%（0）	14.3%（1）	
	意欲なし	38.5%（5）	0.0%（0）	能力低下	15.4%（2）	0.0%（0）	
	知的障害	15.4%（2）	0.0%（0）				
18. 養育知識	はい	46.2%（6）	0.0%（0）	やや	30.8%（4）	14.3%（1）	
	いいえ	15.4%（2）	71.4%（5）	不明	7.7%（1）	14.3%（1）	
	若年親	15.4%（2）	0.0%（0）	知識不足	15.4%（2）	0.0%（0）	
	不適切	38.5%（5）	0.0%（0）	期待過剰	15.4%（2）	0.0%（0）	
19. 社会的サポート	はい	53.8%（5）	14.3%（1）	やや	23.1%（3）	28.6%（2）	
	いいえ	23.1%（3）	42.9%（3）	不明	0.0%（0）	14.3%（1）	
	孤立的	61.5%（5）	0.0%（0）	親族の対立	15.4%（2）	14.3%（1）	
	親族過干渉	7.7%（1）	0.0%（0）	保育なし	0.0%（0）	0.0%（0）	
	転居	15.4%（2）	14.3%（1）				
20. 夫婦問題	はい	61.5%（8）	57.1%（4）	やや	23.1%（3）	14.3%（1）	
	いいえ	23.1%（3）	28.6%（2）	不明	7.7%（1）	0.0%（0）	
	夫婦不和	15.4%（2）	14.3%（1）	夫婦間暴力	30.8%（4）	0.0%（0）	
	別居	15.4%（2）	0.0%（0）	家出	15.4%（2）	0.0%（0）	
	離婚問題	46.2%（6）	42.9%（3）				
21. 経済問題	はい	38.5%（5）	14.3%（1）	やや	23.1%（3）	14.3%（1）	
	いいえ	30.8%（4）	57.1%（4）	不明	7.7%（1）	14.3%（1）	
	ローン	7.7%（1）	0.0%（0）	生活苦	38.5%（5）	14.3%（1）	
	失業	15.4%（2）	0.0%（0）	転居	7.7%（1）	0.0%（0）	
	計画性欠如	23.1%（3）	0.0%（0）				
22. 生活環境	はい	23.1%（3）	0.0%（0）	やや	23.1%（3）	14.3%（1）	
	いいえ	53.8%（7）	71.4%（5）	不明	0.0%（0）	14.3%（1）	
	劣悪住居	23.1%（3）	0.0%（0）	安全への配慮なし	7.7%（1）	0.0%（0）	
23. 協力態度なし	はい	15.4%（2）	0.0%（0）	やや	15.4%（2）	14.3%（1）	
	いいえ	69.2%（9）	85.7%（6）	不明	0.0%（0）	0.0%（0）	
	機関介入拒否	15.4%（2）	0.0%（0）	接触困難	15.4%（2）	0.0%（0）	
24. 援助効果なし	はい	30.8%（4）	0.0%（0）	やや	7.7%（1）	0.0%（0）	
	いいえ	61.5%（8）	85.7%（6）	不明	0.0%（0）	0.0%（0）	
				調整期待できない	23.1%（3）	14.3%（1）	
25. 子を守る人なし	はい	30.8%（4）	0.0%（0）	やや	23.1%（3）	28.6%（2）	
	いいえ	46.2%（6）	71.4%（5）	不明	0.0%（0）	0.0%（0）	
				日常的に子供を危険から守る人がいない	30.8%（4）	0.0%（0）	
				危険な時子の逃げ場がない	23.1%（3）	0.0%（0）	

表9-C-1 C園 リスクアセスメントの該当率

該当率（度数）				該当率（度数）			
被虐待児（20名）		非（13名）		被虐待児（20名）		非（13名）	
1. 傷の程度	生命/重度	0.0%（0）	0.0%（0）	中度	5.0%（1）	0.0%（0）	
	軽度	0.0%（0）	0.0%（0）	不明	25.0%（5）	15.4%（2）	
部位	頭部	0.0%（0）	0.0%（0）	顔面	5.0%（1）	0.0%（0）	
	性器	0.0%（0）	0.0%（0）	頸部	0.0%（0）	0.0%（0）	
	内蔵	0.0%（0）	0.0%（0）	臀部	0.0%（0）	0.0%（0）	
	上肢	5.0%（1）	0.0%（0）	下肢	5.0%（1）	0.0%（0）	
状態	血腫	0.0%（0）	0.0%（0）	骨折	0.0%（0）	0.0%（0）	
	裂傷	0.0%（0）	0.0%（0）	火傷	0.0%（0）	0.0%（0）	
	打撲	5.0%（1）	0.0%（0）	脱水症状	0.0%（0）	0.0%（0）	
	あざ	5.0%（1）	0.0%（0）	みみずばれ	0.0%（0）	0.0%（0）	
	皮膚疾患	0.0%（0）	0.0%（0）				
2. 虐待の継続	はい	40.0%（8）	0.0%（0）	やや	15.0%（3）	0.0%（0）	
	いいえ	15.0%（3）	76.9%（10）	不明	30.0%（6）	23.1%（3）	
	繰り返し	20.0%（4）	0.0%（0）	常習	10.0%（2）	0.0%（0）	
	子を何日も放置する	0.0%（0）	0.0%（0）				
3. 虐待歴	はい	45.0%（9）	7.7%（1）	やや	5.0%（1）	0.0%（0）	
	いいえ	40.0%（8）	76.9%（10）	不明	10.0%（2）	15.4%（2）	
	入院	5.0%（1）	0.0%（0）	施設歴	30.0%（6）	0.0%（0）	
4. 性的虐待	はい	0.0%（0）	0.0%（0）	やや	5.0%（1）	0.0%（0）	
	いいえ	60.0%（12）	76.9%（10）	不明	35.0%（7）	23.1%（3）	
	擬	0.0%（0）	0.0%（0）	性病	0.0%（0）	0.0%（0）	
	妊娠等	0.0%（0）	0.0%（0）				
5. 関係機関からの 情報	はい	65.0%（13）	23.1%（3）	やや	0.0%（0）	0.0%（0）	
	いいえ	15.0%（3）	53.8%（7）	不明	0.0%（0）	15.4%（2）	
	医療	10.0%（2）	0.0%（0）	警察	5.0%（1）	0.0%（0）	
	保健	5.0%（1）	0.0%（0）	学校	25.0%（5）	23.1%（3）	
	保健所	15.0%（3）	0.0%（0）	福祉事務所	15.0%（3）	0.0%（0）	
	民生児童委員	10.0%（2）	0.0%（0）	再三の近隣報告	5.0%（1）	0.0%（0）	
	はい	35.0%（7）	7.7%（1）	やや	15.0%（3）	7.7%（1）	
	いいえ	40.0%（8）	76.9%（10）	不明	5.0%（1）	7.7%（1）	
6. 身体状態 (子ども)	障害	5.0%（1）	0.0%（0）	持病	5.0%（1）	0.0%（0）	
	発達遅れ	35.0%（7）	15.4%（2）	発育不全	5.0%（1）	0.0%（0）	
	アレルギー体質	0.0%（0）	0.0%（0）				
	はい	50.0%（10）	38.5%（5）	やや	15.0%（3）	38.5%（5）	
7. 精神的状態 (子ども)	いいえ	30.0%（6）	23.1%（3）	不明	5.0%（1）	0.0%（0）	
	不安	40.0%（8）	53.8%（7）	恐れ	30.0%（6）	23.1%（3）	
	鬱的	15.0%（3）	7.7%（1）	チック	5.0%（1）	7.7%（1）	
	脱毛	0.0%（0）	0.0%（0）	夜尿	5.0%（1）	0.0%（0）	
	遺尿	0.0%（0）	0.0%（0）	異食	0.0%（0）	0.0%（0）	
	無表情	10.0%（2）	7.7%（1）	攻撃的	20.0%（4）	15.4%（2）	
	暗い表情	20.0%（4）	30.8%（4）				

表9-C-2 C園 リスクアセスメントの該当率

該当率（度数）			該当率（度数）				
被虐待児（20名）		非（13名）	被虐待児（20名）		非（13名）		
8. 日常的状态	はい	40.0%（8）	23.1%（3）	やや	0.0%（0）	7.7%（1）	
	いいえ	40.0%（8）	69.2%（9）	不明	15.0%（3）	0.0%（0）	
	衣食住の監護なし	20.0%（4）	0.0%（0）	非衛生、不潔	15.0%（3）	15.4%（2）	
	医療の放置	0.0%（0）	0.0%（0）	監督不十分	10.0%（2）	15.4%（2）	
9. 問題行動	はい	55.0%（11）	15.4%（2）	やや	20.0%（4）	30.8%（4）	
	いいえ	25.0%（5）	46.2%（6）	不明	0.0%（0）	7.7%（1）	
	暴力	20.0%（4）	7.7%（1）	盗み	20.0%（4）	0.0%（0）	
	家出	20.0%（4）	7.7%（1）	虚言	15.0%（3）	23.1%（3）	
	性的逸脱	15.0%（3）	15.4%（2）	自傷行為	5.0%（1）	15.4%（2）	
	深夜徘徊	15.0%（3）	15.4%（2）	怠学	25.0%（5）	15.4%（2）	
10. 意思・気持ち	はい	30.0%（6）	23.1%（3）	やや	20.0%（4）	15.4%（2）	
	いいえ	45.0%（9）	61.5%（8）	不明	0.0%（0）	0.0%（0）	
	親を嫌う	15.0%（3）	7.7%（1）	帰りがたらない	10.0%（2）	0.0%（0）	
	アンビバレントな気持ち	35.0%（7）	30.8%（4）				
11. 精神的状态	はい	30.0%（6）	15.4%（2）	やや	0.0%（0）	7.7%（1）	
	いいえ	25.0%（5）	53.8%（7）	不明	40.0%（8）	23.1%（3）	
	鬱的	10.0%（2）	7.7%（1）	精神症状	20.0%（4）	15.4%（2）	
	通院	25.0%（5）	15.4%（2）	服薬	20.0%（4）	7.7%（1）	
	疑いはあるが通院歴なし	5.0%（1）	0.0%（0）				
12. 性格の問題	はい	40.0%（8）	30.8%（4）	やや	40.0%（8）	15.4%（2）	
	いいえ	5.0%（1）	46.2%（6）	不明	15.0%（3）	7.7%（1）	
	衝動的	30.0%（6）	7.7%（1）	未熟	45.0%（9）	23.1%（3）	
	攻撃的	20.0%（4）	0.0%（0）	偏り	20.0%（4）	23.1%（3）	
	共感性欠如	5.0%（1）	0.0%（0）				
13. アルコール／	はい	10.0%（2）	0.0%（0）	やや	10.0%（2）	0.0%（0）	
	薬物（養育者）	いいえ	35.0%（7）	76.9%（10）	不明	45.0%（9）	23.1%（3）
	依存	0.0%（0）	0.0%（0）	酔うと暴力	10.0%（2）	0.0%（0）	
				覚醒剤等乱用の疑い	0.0%（0）	0.0%（0）	
14. 被虐待歴	はい	20.0%（4）	0.0%（0）	やや	20.0%（4）	15.4%（2）	
	いいえ	10.0%（4）	46.2%（6）	不明	50.0%（10）	38.5%（5）	
	被虐待歴	20.0%（21）	0.0%（0）	愛されなかった思い	20.0%（4）	15.4%（2）	
15. 子感情／態度	はい	25.0%（5）	7.7%（1）	やや	5.0%（1）	7.7%（1）	
	いいえ	35.0%（7）	69.2%（9）	不明	30.0%（6）	15.4%（2）	
	子ども嫌い	5.0%（1）	0.0%（0）	産まなければ	5.0%（1）	0.0%（0）	
	アンビバレントな気持ち	15.0%（3）	15.4%（2）				
16. 虐待自覚なし	はい	40.0%（8）	7.7%（1）	やや	5.0%（1）	7.7%（1）	
	いいえ	20.0%（4）	69.2%（9）	不明	35.0%（7）	15.4%（2）	
	問題意識なし	15.0%（3）	15.4%（2）	体罰容認	10.0%（2）	0.0%（0）	
	しつけ主張	20.0%（4）	0.0%（0）				

表 9-C-3 C園 リスクアセスメントの該当率

該当率（度数）			該当率（度数）			
被虐待児（20名）		非（13名）	被虐待児（20名）		非（13名）	
17. 養育意欲／能力	はい	20.0%（4）	23.1%（7）	やや	25.0%（5）	15.4%（2）
	いいえ	20.0%（4）	38.5%（5）	不明	35.0%（7）	23.1%（3）
	意欲なし	15.0%（3）	15.4%（2）	能力低下	5.0%（1）	15.4%（2）
	知的障害	15.0%（3）	7.7%（1）			
18. 養育知識	はい	35.0%（7）	7.7%（1）	やや	30.0%（6）	30.8%（4）
	いいえ	15.0%（3）	46.2%（6）	不明	20.0%（4）	15.4%（2）
	若年親	0.0%（15）	0.0%（19）	知識不足	20.0%（4）	15.4%（2）
	不適切	40.0%（8）	15.4%（2）	期待過剰	20.0%（4）	7.7%（1）
19. 社会的サポート	はい	30.0%（6）	7.7%（1）	やや	35.0%（7）	30.8%（4）
	いいえ	20.0%（4）	46.2%（6）	不明	10.0%（2）	7.7%（1）
	孤立的	25.0%（1）	30.8%（4）	親族の対立	10.0%（2）	0.0%（0）
	親族過干渉	0.0%（0）	0.0%（0）	保育なし	0.0%（0）	0.0%（0）
	転居	10.0%（2）	0.0%（0）			
20. 夫婦問題	はい	70.0%（14）	46.2%（6）	やや	5.0%（1）	38.5%（5）
	いいえ	20.0%（4）	15.4%（2）	不明	5.0%（1）	0.0%（0）
	夫婦不和	15.0%（3）	15.4%（2）	夫婦間暴力	5.0%（1）	7.7%（1）
	別居	10.0%（2）	7.7%（1）	家出	10.0%（2）	7.7%（1）
	離婚問題	45.0%（9）	61.5%（8）			
21. 経済問題	はい	50.0%（10）	46.2%（6）	やや	20.0%（4）	15.4%（2）
	いいえ	25.0%（5）	38.5%（5）	不明	5.0%（1）	0.0%（0）
	ローン	10.0%（2）	7.7%（1）	生活苦	55.0%（11）	38.5%（5）
	失業	10.0%（2）	23.1%（3）	転居	5.0%（1）	7.7%（1）
	計画性欠如	15.0%（3）	0.0%（0）			
22. 生活環境	はい	20.0%（4）	7.7%（1）	やや	25.0%（5）	15.4%（2）
	いいえ	25.0%（5）	46.2%（6）	不明	25.0%（5）	30.8%（4）
	劣悪住居	25.0%（5）	23.1%（3）	安全への配慮なし	5.0%（1）	0.0%（0）
23. 協力態度なし	はい	0.0%（0）	7.7%（1）	やや	10.0%（2）	7.7%（1）
	いいえ	65.0%（13）	69.2%（9）	不明	25.0%（5）	15.4%（2）
	機関介入拒否	0.0%（0）	0.0%（0）	接触困難	0.0%（0）	7.7%（1）
24. 援助効果なし	はい	10.0%（2）	7.7%（1）	やや	10.0%（2）	0.0%（0）
	いいえ	55.0%（11）	76.9%（10）	不明	25.0%（5）	15.4%（2）
				調整期待できない	10.0%（2）	7.7%（1）
25. 子を守る人なし	はい	20.0%（4）	0.0%（0）	やや	15.0%（3）	7.7%（1）
	いいえ	55.0%（11）	76.9%（10）	不明	10.0%（2）	7.7%（1）
				日常的に子供を危険から守る人がいない	20.0%（4）	0.0%（0）
				危険な時子の逃げ場がない	10.0%（2）	0.0%（0）

表9-D-1 D園 リスクアセスメントの該当率

該当率（度数）				該当率（度数）			
被虐待児（12名）			非（15名）	被虐待児（12名）		非（15名）	
1. 傷の程度	生命/重度	0.0%（0）	0.0%（0）	中度	0.0%（0）	0.0%（0）	
	軽度	8.3%（1）	0.0%（0）	不明	41.7%（5）	6.7%（1）	
部位	頭部	0.0%（0）	0.0%（0）	顔面	0.0%（0）	0.0%（0）	
	性器	0.0%（0）	0.0%（0）	頸部	0.0%（0）	0.0%（0）	
	内蔵	0.0%（0）	0.0%（0）	臀部	0.0%（0）	0.0%（0）	
	上肢	0.0%（0）	0.0%（0）	下肢	0.0%（0）	0.0%（0）	
状態	血腫	0.0%（0）	0.0%（0）	骨折	0.0%（0）	0.0%（0）	
	裂傷	0.0%（0）	0.0%（0）	火傷	0.0%（0）	0.0%（0）	
	打撲	8.3%（1）	0.0%（0）	脱水症状	0.0%（0）	0.0%（0）	
	あざ	8.3%（1）	0.0%（0）	みみずばれ	0.0%（0）	0.0%（0）	
	皮膚疾患	0.0%（0）	0.0%（0）				
2. 虐待の継続	はい	41.7%（5）	0.0%（0）	やや	16.7%（2）	0.0%（0）	
	いいえ	25.0%（3）	100.0%（15）	不明	16.7%（2）	0.0%（0）	
	繰り返し	50.0%（6）	0.0%（0）	常習	16.7%（2）	0.0%（0）	
子を何日も放置する	8.3%（1）	0.0%（0）					
3. 虐待歴	はい	16.7%（2）	0.0%（0）	やや	16.7%（2）	0.0%（0）	
	いいえ	50.0%（6）	100.0%（15）	不明	16.7%（2）	0.0%（0）	
入院	8.3%（1）	0.0%（0）	施設歴	25.0%（3）	0.0%（0）		
4. 性的虐待	はい	8.3%（1）	0.0%（0）	やや	0.0%（0）	0.0%（0）	
	いいえ	75.0%（9）	100.0%（15）	不明	16.7%（2）	0.0%（0）	
擬	8.3%（1）	0.0%（0）	性病	0.0%（0）	0.0%（0）		
妊娠等	0.0%（0）	0.0%（0）					
5. 関係機関からの情報	はい	33.3%（4）	0.0%（0）	やや	8.3%（1）	0.0%（0）	
	いいえ	41.7%（5）	93.3%（14）	不明	8.3%（1）	0.0%（0）	
医療	25.0%（3）	0.0%（0）	警察	25.0%（3）	0.0%（0）		
保健	0.0%（0）	0.0%（0）	学校	33.3%（4）	0.0%（0）		
保健所	8.3%（1）	0.0%（0）	福祉事務所	8.3%（1）	0.0%（0）		
民生児童委員	0.0%（0）	0.0%（0）	再三の近隣報告	16.7%（2）	0.0%（0）		
6. 身体状態（子ども）	はい	16.7%（2）	13.3%（2）	やや	58.3%（7）	33.3%（5）	
	いいえ	25.0%（3）	53.3%（8）	不明	0.0%（0）	0.0%（0）	
障害	0.0%（0）	20.0%（3）	持病	25.0%（3）	20.0%（3）		
発達遅れ	41.7%（5）	0.0%（0）	発育不全	8.3%（1）	0.0%（0）		
アレルギー体質	8.3%（1）	13.3%（2）					
7. 精神的状態（子ども）	はい	58.3%（7）	26.7%（4）	やや	41.7%（5）	60.0%（9）	
	いいえ	0.0%（0）	13.3%（2）	不明	0.0%（0）	0.0%（0）	
不安	75.0%（9）	73.3%（11）	恐れ	58.3%（7）	60.0%（9）		
鬱的	16.7%（2）	0.0%（0）	チック	0.0%（0）	13.3%（2）		
脱毛	8.3%（1）	0.0%（0）	夜尿	25.0%（3）	0.0%（0）		
遺尿	8.3%（1）	0.0%（0）	異食	8.3%（1）	0.0%（0）		
無表情	8.3%（1）	0.0%（0）	攻撃的	33.3%（4）	13.3%（2）		
暗い表情	33.3%（4）	20.0%（3）					

表9-D-2 D園 リスクアセスメントの該当率

該当率（度数）				該当率（度数）			
被虐待児（12名）			非（15名）	被虐待児（12名）		非（15名）	
8. 日常的状态	はい	33.3%（4）	0.0%（0）	やや	25.0%（3）	6.7%（1）	
	（子ども）	いいえ	33.3%（4）	86.7%（13）	不明	8.3%（1）	6.7%（1）
	衣食住の監護なし	0.0%（0）	0.0%（0）	非衛生、不潔	25.0%（3）	0.0%（0）	
	医療の放置	16.7%（2）	0.0%（0）	監督不十分	33.3%（4）	6.7%（1）	
9. 問題行動	はい	33.3%（4）	6.7%（1）	やや	25.0%（4）	26.7%（4）	
	（子ども）	いいえ	33.3%（4）	66.7%（10）	不明	8.3%（1）	0.0%（0）
	暴力	25.0%（3）	0.0%（0）	盗み	8.3%（1）	6.7%（1）	
	家出	8.3%（1）	6.7%（1）	虚言	16.7%（2）	6.7%（1）	
	性的逸脱	8.3%（1）	6.7%（1）	自傷行為	25.0%（3）	6.7%（1）	
	深夜徘徊	0.0%（0）	6.7%（1）	怠学	0.0%（0）	6.7%（1）	
10. 意思・気持ち	はい	25.0%（3）	6.7%（1）	やや	41.7%（5）	53.3%（8）	
	（子ども）	いいえ	25.0%（3）	40.0%（6）	不明	8.3%（1）	0.0%（0）
	親を嫌う	8.3%（1）	6.7%（1）	帰りがらない	8.3%（1）	0.0%（0）	
	アンビバレントな気持ち	58.3%（7）	53.3%（8）				
11. 精神的状態	はい	25.0%（3）	0.0%（0）	やや	8.3%（1）	13.3%（2）	
	（養育者）	いいえ	50.0%（6）	86.7%（13）	不明	16.7%（2）	0.0%（0）
	鬱的	0.0%（0）	0.0%（0）	精神症状	16.7%（2）	0.0%（0）	
	通院	16.7%（2）	13.3%（2）	服薬	25.0%（3）	13.3%（2）	
	疑いはあるが通院歴なし	8.3%（1）	0.0%（0）				
12. 性格的問題	はい	41.7%（5）	20.0%（3）	やや	41.7%（5）	40.0%（6）	
	（養育者）	いいえ	8.3%（1）	40.0%（3）	不明	8.3%（1）	0.0%（0）
	衝動的	8.3%（1）	6.7%（1）	未熟	41.7%（5）	20.0%（3）	
	攻撃的	33.3%（4）	13.3%（2）	偏り	58.3%（7）	40.0%（6）	
	共感性欠如	41.7%（5）	0.0%（0）				
13. アルコール／ 薬物（養育者）	はい	8.3%（1）	0.0%（0）	やや	8.3%（1）	6.7%（1）	
	いいえ	75.0%（9）	93.3%（14）	不明	8.3%（1）	0.0%（0）	
	依存	0.0%（0）	0.0%（0）	酔うと暴力	0.0%（0）	6.7%（1）	
				覚醒剤等乱用の疑い	8.3%（1）	0.0%（0）	
14. 被虐待歴	はい	16.7%（2）	0.0%（0）	やや	0.0%（0）	0.0%（0）	
	（養育者）	いいえ	16.7%（2）	66.7%（10）	不明	66.7%（8）	33.3%（5）
	被虐待歴	16.7%（2）	0.0%（0）	愛されなかった思い	8.3%（1）	0.0%（0）	
15. 子感情／態度	はい	16.7%（2）	0.0%（0）	やや	16.7%（2）	6.7%（1）	
	いいえ	50.0%（6）	93.3%（14）	不明	16.7%（2）	0.0%（0）	
	子ども嫌い	8.3%（1）	0.0%（0）	産まなければ	0.0%（0）	0.0%（0）	
	アンビバレントな気持ち	33.3%（4）	6.7%（1）				
16. 虐待自覚なし	はい	33.3%（4）	0.0%（0）	やや	25.0%（3）	6.7%（1）	
	いいえ	25.0%（3）	86.7%（13）	不明	16.7%（2）	6.7%（1）	
	問題意識なし	50.0%（6）	6.7%（1）	体罰容認	16.7%（2）	0.0%（0）	
	しつけ主張	16.7%（2）	0.0%（0）				

表9-D-3 D園 リスクアセスメントの該当率

該当率（度数）				該当率（度数）			
被虐待児（12名）			非（15名）	被虐待児（12名）		非（15名）	
17. 養育意欲／能力	はい	41.7%（5）	0.0%（0）	やや	8.3%（1）	6.7%（1）	
	いいえ	41.7%（5）	93.3%（14）	不明	8.3%（1）	0.0%（0）	
	意欲なし	8.3%（1）	6.7%（1）	能力低下	50.0%（6）	6.7%（1）	
	知的障害	25.0%（3）	0.0%（0）				
18. 養育知識	はい	66.7%（8）	13.3%（2）	やや	25.0%（3）	60.0%（9）	
	いいえ	8.3%（1）	26.7%（4）	不明	0.0%（0）	0.0%（0）	
	若年親	0.0%（0）	0.0%（0）	知識不足	33.3%（4）	6.7%（1）	
	不適切	83.3%（3）	46.7%（7）	期待過剰	8.3%（1）	40.0%（6）	
19. 社会的サポート	はい	33.3%（4）	13.3%（2）	やや	16.7%（2）	33.3%（5）	
	いいえ	41.7%（5）	53.3%（8）	不明	0.0%（0）	0.0%（0）	
	孤立的	50.0%（6）	33.3%（5）	親族の対立	0.0%（0）	13.3%（2）	
	親族過干渉	0.0%（0）	0.0%（0）	保育なし	8.3%（1）	0.0%（0）	
	転居	8.3%（1）	0.0%（0）				
20. 夫婦問題	はい	58.3%（7）	20.0%（3）	やや	8.3%（1）	26.7%（4）	
	いいえ	25.0%（3）	40.0%（6）	不明	8.3%（1）	13.3%（2）	
	夫婦不和	16.7%（2）	20.0%（3）	夫婦間暴力	25.0%（3）	6.7%（0）	
	別居	0.0%（0）	0.0%（0）	家出	0.0%（0）	6.7%（1）	
	離婚問題	50.0%（6）	26.7%（4）				
21. 経済問題	はい	33.3%（4）	6.7%（1）	やや	33.3%（4）	13.3%（2）	
	いいえ	16.7%（2）	73.3%（11）	不明	16.7%（2）	6.7%（1）	
	ローン	0.0%（0）	0.0%（0）	生活苦	66.7%（8）	13.3%（2）	
	失業	8.3%（1）	0.0%（0）	転居	8.3%（1）	0.0%（0）	
	計画性欠如	16.7%（2）	6.7%（1）				
22. 生活環境	はい	16.7%（2）	0.0%（0）	やや	16.7%（2）	6.7%（1）	
	いいえ	33.3%（4）	93.3%（14）	不明	33.3%（4）	0.0%（0）	
	劣悪住居	25.0%（3）	0.0%（0）	安全への配慮なし	33.3%（4）	0.0%（0）	
23. 協力態度なし	はい	8.3%（1）	0.0%（0）	やや	8.3%（1）	0.0%（0）	
	いいえ	83.3%（10）	100.0%（15）	不明	0.0%（0）	0.0%（0）	
	機関介入拒否	8.3%（1）	0.0%（0）	接触困難	8.3%（1）	0.0%（0）	
24. 援助効果なし	はい	8.3%（1）	0.0%（0）	やや	8.3%（1）	0.0%（0）	
	いいえ	75.0%（9）	100.0%（15）	不明	8.3%（1）	0.0%（0）	
				調整期待できない	16.7%（2）	0.0%（0）	
25. 子を守る人なし	はい	25.0%（3）	0.0%（0）	やや	8.3%（1）	6.7%（1）	
	いいえ	50.0%（6）	93.3%（14）	不明	16.7%（2）	0.0%（0）	
				日常的に子供を危険から守る人がいない	16.7%（2）	0.0%（0）	
				危険な時子の逃げ場がない	16.7%（2）	0.0%（0）	

表9-E-1 E園 リスクアセスメントの該当率

該当率（度数）				該当率（度数）			
被虐待児（10名）			非（3名）	被虐待児（10名）			非（3名）
1. 傷の程度	生命/重度	0.0%（0）	0.0%（0）	中度	0.0%（0）	0.0%（0）	
	軽度	10.0%（1）	0.0%（0）	不明	70.0%（7）	33.3%（1）	
部位	頭部	20.0%（2）	0.0%（0）	顔面	20.0%（2）	0.0%（0）	
	性器	10.0%（1）	0.0%（0）	頸部	0.0%（0）	0.0%（0）	
	内蔵	0.0%（0）	0.0%（0）	臀部	0.0%（0）	0.0%（0）	
	上肢	0.0%（0）	0.0%（0）	下肢	0.0%（0）	0.0%（0）	
	状態	血腫	0.0%（0）	0.0%（0）	骨折	0.0%（0）	0.0%（0）
	裂傷	0.0%（0）	0.0%（0）	火傷	0.0%（0）	0.0%（0）	
	打撲	10.0%（1）	0.0%（0）	脱水症状	0.0%（0）	0.0%（0）	
	あざ	10.0%（1）	0.0%（0）	みみずばれ	20.0%（2）	0.0%（0）	
	皮膚疾患	0.0%（0）	0.0%（0）				
2. 虐待の継続	はい	70.0%（7）	0.0%（0）	やや	20.0%（2）	0.0%（0）	
	いいえ	10.0%（1）	66.7%（2）	不明	33.3%（1）	0.0%（0）	
	繰り返し	60.0%（6）	0.0%（0）	常習	0.0%（0）	0.0%（0）	
	子を何日も放置する	10.0%（1）	0.0%（0）				
3. 虐待歴	はい	50.0%（5）	0.0%（0）	やや	0.0%（0）	0.0%（0）	
	いいえ	50.0%（5）	66.7%（2）	不明	33.3%（1）	0.0%（0）	
	入院	10.0%（0）	0.0%（0）	施設歴	30.0%（3）	0.0%（0）	
4. 性的虐待	はい	40.0%（4）	0.0%（0）	やや	0.0%（0）	0.0%（0）	
	いいえ	50.0%（5）	66.7%（2）	不明	10.0%（1）	33.3%（1）	
	擬	20.0%（2）	0.0%（0）	性病	0.0%（0）	0.0%（0）	
	妊娠等	0.0%（0）	0.0%（0）				
5. 関係機関からの 情報	はい	50.0%（5）	0.0%（0）	やや	10.0%（1）	0.0%（0）	
	いいえ	30.0%（3）	66.7%（2）	不明	10.0%（1）	33.3%（1）	
	医療	30.0%（3）	0.0%（0）	警察	0.0%（0）	0.0%（0）	
	保健	0.0%（0）	0.0%（0）	学校	30.0%（3）	0.0%（0）	
	保健所	0.0%（0）	0.0%（0）	福祉事務所	10.0%（1）	0.0%（0）	
	民生児童委員	0.0%（0）	0.0%（0）	再三の近隣報告	0.0%（0）	0.0%（0）	
	6. 身体状態 (子ども)	はい	20.0%（2）	0.0%（0）	やや	10.0%（1）	0.0%（0）
	いいえ	70.0%（7）	100.0%（3）	不明	0.0%（0）	0.0%（0）	
	障害	0.0%（0）	0.0%（0）	持病	0.0%（0）	0.0%（0）	
	発達遅れ	0.0%（0）	0.0%（0）	発育不全	0.0%（0）	0.0%（0）	
アレルギー体質	20.0%（2）	0.0%（0）					
7. 精神的状態 (子ども)	はい	80.0%（8）	33.3%（1）	やや	10.0%（1）	66.7%（2）	
	いいえ	10.0%（1）	33.3%（5）	不明	0.0%（0）	0.0%（0）	
	不安	40.0%（4）	66.7%（2）	恐れ	20.0%（2）	0.0%（0）	
	鬱的	0.0%（0）	0.0%（0）	チック	10.0%（1）	0.0%（0）	
	脱毛	0.0%（0）	0.0%（0）	夜尿	10.0%（1）	0.0%（0）	
	遺尿	0.0%（0）	0.0%（0）	異食	0.0%（0）	0.0%（0）	
	無表情	20.0%（2）	0.0%（0）	攻撃的	50.0%（5）	0.0%（0）	
	暗い表情	30.0%（3）	0.0%（0）				

表 9-E-2 E園 リスクアセスメントの該当率

該当率（度数）				該当率（度数）			
被虐待児（10名）			非（3名）	被虐待児（10名）			非（3名）
8. 日常的状态	はい	30.0%（3）	0.0%（0）	やや	20.0%（2）	0.0%（0）	
	（子ども）	いいえ	50.0%（5）	100.0%（3）	不明	0.0%（0）	0.0%（0）
	衣食住の監護なし	20.0%（2）	0.0%（0）	非衛生、不潔	0.0%（0）	0.0%（0）	
	医療の放置	0.0%（0）	0.0%（0）	監督不十分	20.0%（2）	0.0%（0）	
9. 問題行動	はい	70.0%（7）	0.0%（0）	やや	20.0%（2）	0.0%（0）	
	（子ども）	いいえ	20.0%（2）	100.0%（3）	不明	0.0%（0）	0.0%（0）
	暴力	30.0%（3）	0.0%（0）	盗み	20.0%（2）	0.0%（0）	
	家出	20.0%（2）	0.0%（0）	虚言	10.0%（1）	0.0%（0）	
	性的逸脱	0.0%（0）	0.0%（0）	自傷行為	40.0%（4）	0.0%（0）	
	深夜徘徊	10.0%（1）	0.0%（0）	怠学	0.0%（0）	0.0%（0）	
10. 意思・気持ち	はい	60.0%（6）	66.7%（2）	やや	0.0%（0）	0.0%（0）	
	（子ども）	いいえ	40.0%（4）	33.3%（1）	不明	0.0%（0）	0.0%（0）
	親を嫌う	30.0%（3）	0.0%（0）	帰りがらない	10.0%（1）	33.3%（1）	
	アンビバレントな気持ち	30.0%（3）	33.3%（1）				
11. 精神的状態	はい	30.0%（3）	0.0%（0）	やや	0.0%（0）	33.3%（1）	
	（養育者）	いいえ	60.0%（6）	66.7%（2）	不明	10.0%（1）	0.0%（0）
	鬱的	30.0%（3）	33.3%（1）	精神症状	0.0%（0）	0.0%（0）	
	通院	20.0%（2）	0.0%（0）	服薬	20.0%（2）	0.0%（0）	
	疑いはあるが通院歴なし	0.0%（0）	0.0%（0）				
12. 性格的問題	はい	60.0%（6）	0.0%（0）	やや	20.0%（2）	66.7%（2）	
	（養育者）	いいえ	10.0%（1）	33.3%（1）	不明	10.0%（1）	0.0%（0）
	衝動的	20.0%（2）	0.0%（0）	未熟	30.0%（3）	33.3%（1）	
	攻撃的	20.0%（2）	0.0%（0）	偏り	10.0%（1）	0.0%（0）	
	共感性欠如	10.0%（1）	0.0%（0）				
13. アルコール／	はい	0.0%（0）	0.0%（0）	やや	0.0%（0）	0.0%（0）	
	薬物（養育者）	いいえ	70.0%（7）	100.0%（3）	不明	30.0%（3）	0.0%（0）
	依存	0.0%（0）	0.0%（0）	酔うと暴力	0.0%（0）	0.0%（0）	
				覚醒剤等乱用の疑い	0.0%（0）	0.0%（0）	
14. 被虐待歴	はい	10.0%（1）	0.0%（0）	やや	10.0%（1）	0.0%（0）	
	（養育者）	いいえ	50.0%（5）	66.7%（2）	不明	30.0%（3）	33.3%（1）
	被虐待歴	0.0%（0）	0.0%（0）	愛されなかった思い	20.0%（2）	0.0%（0）	
15. 子感情／態度	はい	10.0%（1）	0.0%（0）	やや	10.0%（1）	66.7%（2）	
	いいえ	70.0%（7）	33.3%（1）	不明	10.0%（1）	0.0%（0）	
	子ども嫌い	10.0%（1）	0.0%（0）	産まなければ	0.0%（0）	0.0%（0）	
	アンビバレントな気持ち	0.0%（0）	33.3%（1）				
16. 虐待自覚なし	はい	60.0%（6）	0.0%（0）	やや	0.0%（0）	0.0%（0）	
	いいえ	20.0%（2）	33.3%（1）	不明	20.0%（2）	33.3%（1）	
	問題意識なし	20.0%（2）	0.0%（0）	体罰容認	0.0%（0）	0.0%（0）	
	しつけ主張	10.0%（1）	0.0%（0）				

表 9-E-3 E園 リスクアセスメントの該当率

該当率（度数）			該当率（度数）			
被虐待児（10名）		非（3名）	被虐待児（10名）		非（3名）	
17. 養育意欲／能力	はい	40.0%（4）	0.0%（0）	やや	10.0%（1）	0.0%（0）
	いいえ	40.0%（4）	100.0%（3）	不明	10.0%（1）	0.0%（0）
	意欲なし	10.0%（1）	0.0%（0）	能力低下	30.0%（3）	0.0%（0）
	知的障害	0.0%（0）	0.0%（0）			
18. 養育知識	はい	40.0%（4）	33.3%（1）	やや	10.0%（1）	66.7%（2）
	いいえ	20.0%（2）	0.0%（0）	不明	30.0%（3）	0.0%（0）
	若年親	0.0%（0）	0.0%（0）	知識不足	20.0%（2）	0.0%（0）
	不適切	30.0%（3）	33.3%（1）	期待過剰	10.0%（1）	0.0%（0）
19. 社会的サポート	はい	40.0%（4）	66.7%（2）	やや	10.0%（1）	0.0%（0）
	いいえ	40.0%（4）	33.3%（1）	不明	0.0%（0）	0.0%（0）
	孤立的	20.0%（2）	0.0%（0）	親族の対立	10.0%（1）	33.3%（1）
	親族過干渉	10.0%（1）	0.0%（0）	保育なし	0.0%（0）	0.0%（0）
	転居	0.0%（0）	0.0%（0）			
20. 夫婦問題	はい	80.0%（8）	100.0%（3）	やや	0.0%（0）	0.0%（0）
	いいえ	20.0%（2）	0.0%（0）	不明	0.0%（0）	0.0%（0）
	夫婦不和	10.0%（1）	33.3%（1）	夫婦間暴力	10.0%（1）	0.0%（0）
	別居	10.0%（1）	0.0%（0）	家出	10.0%（2）	0.0%（0）
	離婚問題	60.0%（6）	0.0%（0）			
21. 経済問題	はい	70.0%（7）	33.3%（1）	やや	10.0%（1）	33.3%（1）
	いいえ	20.0%（2）	33.3%（1）	不明	0.0%（0）	0.0%（0）
	ローン	20.0%（2）	0.0%（0）	生活苦	50.0%（5）	33.3%（1）
	失業	40.0%（4）	0.0%（0）	転居	0.0%（0）	0.0%（0）
	計画性欠如	0.0%（0）	0.0%（0）			
22. 生活環境	はい	40.0%（4）	0.0%（0）	やや	0.0%（0）	0.0%（0）
	いいえ	50.0%（5）	66.7%（2）	不明	10.0%（1）	33.3%（1）
	劣悪住居	10.0%（1）	0.0%（0）	安全への配慮なし	20.0%（2）	0.0%（0）
23. 協力態度なし	はい	0.0%（0）	0.0%（0）	やや	20.0%（2）	0.0%（0）
	いいえ	90.0%（9）	100.0%（3）	不明	0.0%（0）	0.0%（0）
	機関介入拒否	0.0%（0）	0.0%（0）	接触困難	0.0%（0）	0.0%（0）
24. 援助効果なし	はい	0.0%（0）	0.0%（0）	やや	20.0%（2）	0.0%（0）
	いいえ	80.0%（8）	100.0%（3）	不明	0.0%（0）	0.0%（0）
				調整期待できない	0.0%（0）	0.0%（0）
25. 子を守る人なし	はい	40.0%（4）	0.0%（0）	やや	0.0%（0）	66.6%（2）
	いいえ	60.0%（6）	33.3%（1）	不明	0.0%（0）	0.0%（0）
				日常的に子供を危険から守る人がいない	20.0%（2）	0.0%（0）
				危険な時子の逃げ場がない	10.0%（1）	0.0%（0）

アンケート調査 その1

子どもの状態像に関する調査

整理番号

--	--	--

施設No

児童No

虐待経験の有無

(被虐待児 0・非被虐待児 1)

入所時の学年 小 中 高 (年) 入所時の年齢 (歳) 性別 (男・女)

入所年月 (年 月) 調査年月 (年 月)

(1) 身体的状況について

A 睡眠

(a) 入所後 (b) 現在

- | | | |
|---|---|-------------------|
| 1 | 1 | ねつきが悪い |
| 2 | 2 | 夜中に目を覚ましやすい、眠りが浅い |
| 3 | 3 | 早朝に目が覚めてしまう |
| 4 | 4 | 夜泣き、激しい寝ぼけ、夜驚 |
| 5 | 5 | 悪夢の訴え |
| 6 | 6 | 特に問題なし |
| 7 | 7 | その他 (|
| | 7 | その他 (|

B 食欲

(a) 入所後 (b) 現在

- | | | |
|----|----|-----------------------|
| 1 | 1 | 食欲がない、拒食傾向 |
| 2 | 2 | 異常なほどの食欲、過食傾向 |
| 3 | 3 | むさぼり食い |
| 4 | 4 | 極端な偏食 |
| 5 | 5 | 極端な味付け (調味料のかけすぎなど) |
| 6 | 6 | 盗み食い |
| 7 | 7 | 異食症 (食べられないものを食べてしまう) |
| 8 | 8 | 食欲の極端なむら |
| 9 | 9 | 特に問題なし |
| 10 | 10 | その他 (|
| | 10 | その他 (|

C 排泄

(a) 入所後 (b) 現在

- | | | |
|---|---|--------------------|
| 1 | 1 | 頻尿 |
| 2 | 2 | 遺尿もしくは遺糞 |
| 3 | 3 | 頻繁な夜尿 |
| 4 | 4 | トイレ以外 (居室など) での排尿便 |
| 5 | 5 | 頻繁な便秘 |
| 6 | 6 | 頻繁な下痢 |
| 7 | 7 | 特に問題なし |
| 8 | 8 | その他 (|
| | 8 | その他 (|

D 身体感覚

(a) 入所後	(b) 現在
1	1 痛みに敏感（わずかな痛みも大きく訴える、わずかな怪我にもパニックなど）
2	2 痛みに鈍感（痛みを感じないかのように、怪我に気づかないなど）
3	3 暑さ・寒さに敏感（極端に暑がる、寒がる）
4	4 暑さ・寒さに鈍感（夏でも平気で厚着、冬でも平気で薄着など）
5	5 過敏さと鈍感さが混在していて、ちぐはぐ（身体感覚の異常）
6	6 特に問題なし
7	7 その他（
	7 その他（

E 身体運動

(a) 入所後	(b) 現在
1	1 大きな運動機能のまずさ（転びやすい、ボールがよけられないなど）
2	2 微細な運動機能のまずさ（極端な手先の不器用さ）
3	3 運動発達の遅れ（極端に足が遅いなど年齢に比して著しい運動発達の遅れ）
4	4 特に問題なし
5	5 その他（
	5 その他（

F 身体発育

(a) 入所後	(b) 現在
1	1 その年齢の標準に比して低身長・低体重
2	2 特に問題なし
3	3 その他の身体発達上の問題（
	3 その他の身体発達上の問題（

(2) 情動の傾向

G 情動の傾向

(a) 入所後	(b) 現在
1	1 元気がない、ふさぎ込み（抑うつが目立つ）
2	2 表情が乏しい、もしくは不活発で硬い表情が目立つ
3	3 すぐ泣き出す、すぐ涙ぐむ、悲しげ（悲哀が目立つ）
4	4 不安、もしくは怯えの表情が目立つ
5	5 過敏な反応（ぎくっと驚愕したり、怯えを示すなど）
6	6 過度の落ち着きのなさ（多動傾向）
7	7 注意の集中や持続の困難が目立つ
8	8 衝動性が目立つ、衝動のコントロールが困難
9	9 不自然なはしゃぎやハイテンションが目立つ
10	10 気分の浮き沈みが激しい、感情が移ろいやすい
11	11 些細な刺激やきっかけで痙攣やパニックが起きる
12	12 周りには訳が分からないことで、突然キレたり激しい痙攣を起こしたりパニックを起こす
13	13 ぼーっとして、心がどこかに行ってしまったような表情を示す、叱られたり注意されたときに起きやすい、その間のことはほとんど頭に入っていない（意識の解離）
14	14 ふつうなら激しい感情反応（泣くとか怖がるとか）が引き出されるはずの状況で、まるで何も感じてないかのような無反応さ・無感情さを示す（感情の解離）
15	15 些細なことへのこだわりが目立つ
16	16 訳もなくイライラする

- | | | |
|----|----|--------|
| 17 | 17 | 特に問題なし |
| 18 | | その他（ |
| | 18 | その他（ |

(3) 対人関係の傾向

H 大人（スタッフ）に対する態度

(a) 入所後 (b) 現在

- | | | |
|----|----|---|
| 1 | 1 | 無関心で関わりを持とうとしない、或いはどうでもよいという様子 |
| 2 | 2 | 拒否的で関わりを拒む、或いは放っておいて欲しいという様子 |
| 3 | 3 | 攻撃的で怒りやイライラをぶつけてくる、或いはつっぱった態度 |
| 4 | 4 | 凍りついたような目つきや様子 |
| 5 | 5 | 表面的で、心を開かない様子 |
| 6 | 6 | おずおずとした態度、おどおどとした態度 |
| 7 | 7 | 近づきたい様子はあるが、うまく近づけない |
| 8 | 8 | 過剰に接近しがち（べたべたする、過度なじゃれつきなど） |
| 9 | 9 | そのときそのときで近づいたり離れたり不安定（安定しない距離の取り方） |
| 10 | 10 | 極端な依存や見捨てられ不安がうかがわれる態度（つきまとい、しがみつき） |
| 11 | 11 | オーバーな甘え方と手のひらを返したような無視の態度 |
| 12 | 12 | 大人に合わせてできるだけ「いい子」として受け入れられようとする態度
（不自然なこやかさ） |
| 13 | 13 | 相手の様子にお構いなく身勝手に近づいてくる |
| 14 | 14 | 特に気づく点はない |
| 15 | | その他（ |
| | 15 | その他（ |

I 大人（スタッフ）に対して目立つ行動

(a) 入所後 (b) 現在

- | | | |
|----|----|--------------------------------|
| 1 | 1 | スタッフの注意を引こうとする（逸脱した振る舞いなどによって） |
| 2 | 2 | 思いどおりに動かそうとする（操作的） |
| 3 | 3 | 裏表のある言動、相手によってまったく異なる言動 |
| 4 | 4 | 反発や攻撃 |
| 5 | 5 | 神経を逆なでしたり、かっとならせるような言動 |
| 6 | 6 | 独りじめしようとする |
| 7 | 7 | 顔をうかがう |
| 8 | 8 | 甘え（依存）と反発（拒否）が入り混じる（アンビバレンツ） |
| 9 | 9 | スタッフへの好意や愛着を強く示そうとする（過剰なサービス） |
| 10 | 10 | 特に気づく点はない |
| 11 | | その他（ |
| | 11 | その他（ |

J 他の子どもに対する目立った行動

(a) 入所後 (b) 現在

- | | | |
|---|---|------------------------------|
| 1 | 1 | 一緒に遊べず、孤立している |
| 2 | 2 | すぐに喧嘩や衝突になる |
| 3 | 3 | すぐいじめる |
| 4 | 4 | いじめられやすい |
| 5 | 5 | ねたみやすい、嫉妬心が強い、すぐうらむ |
| 6 | 6 | ひがみやすい |
| 7 | 7 | 攻撃的、他の子を口でやっつけたり、或いは暴力に訴えやすい |
| 8 | 8 | 支配的、他の子を思うように動かそうとする |

- | | | |
|----|----|------------------------------|
| 9 | 9 | 他の子の言うがままになりやすい |
| 10 | 10 | 競争心が強くすぐはりあう |
| 11 | 11 | 競争を避ける、しり込みする |
| 12 | 12 | 独占欲が強い、物や人を独り占めにしたがる |
| 13 | 13 | 物への執着が薄く、すぐ他児に譲ったり取られても気にしない |
| 14 | 14 | 依存的で他の子に頼る、一人ではできない |
| 15 | 15 | 物品などで他の子の好意や関心を得ようとする |
| 16 | 16 | 神経を逆なでするような、かっとさせるような言動 |
| 17 | 17 | その場の様子を気にせず、勝手なので嫌われる（傍若無人） |
| 18 | 18 | 他の子が叱られるのを喜ぶ |
| 19 | 19 | 告げ口が多い |
| 20 | 20 | 性的な遊びをする（同性と） |
| 21 | 21 | 特に目立つ行動に気づかない |
| 22 | | その他（ |
| | 22 | その他（ |

K 社会的なルールや約束

(a) 入所後 (b) 現在

- | | | |
|---|---|---------------------------------|
| 1 | 1 | わかっているが自己コントロールができず守れない |
| 2 | 2 | 反抗や反発からわざと破る |
| 3 | 3 | 注意されたり指示されたことが残らない、ルールや約束をすぐ忘れる |
| 4 | | 虚言が多い |
| | | 虚言の傾向 a 責められることを避けようとしての嘘 |
| | | b 関心を引こうとしての嘘 |
| | | c 空想やファンタジーがいたりまっじた嘘 |
| | | d その他（ |
| | 4 | 虚言が多い |
| | | 虚言の傾向 a 責められることを避けようとしての嘘 |
| | | b 関心を引こうとしての嘘 |
| | | c 空想やファンタジーがいたりまっじた嘘 |
| | | d その他（ |
| 5 | 5 | ルールに過度に忠実、融通がきかない、強迫的にこだわる |
| 6 | 6 | ルールに無頓着 |
| 7 | 7 | 特に気づく点はない |
| 8 | | その他（ |
| | 8 | その他（ |

L 特定の大人との関係

(a) 入所後 (b) 現在

- | | | |
|---|---|---------------------------------------|
| 1 | 1 | 特定の大人（スタッフ）と親しい関係を持ち、その関係は持続的で安定 |
| 2 | 2 | 特定の大人（スタッフ）と親しい関係を持つが、その相手がよく替わり一定しない |
| 3 | 3 | 特定の大人（スタッフ）と親しい関係を持ちにくい |
| 4 | | その他（ |
| | 4 | その他（ |

M 特定の子どもとの関係

(a) 入所後 (b) 現在

- | | | |
|---|---|------------------------------------|
| 1 | 1 | 特定の子どもと親しい友人関係を持ち、その関係は持続的 |
| 2 | 2 | 特定の子どもと親しい友人関係を持つが、その相手がよく替わり一定しない |

- | | | |
|---|---|--------------------|
| 3 | 3 | 特定の子と親しい友人関係を持ちにくい |
| 4 | | その他（ |
| | 4 | その他（ |

(4) その他

N 自分自身に対する構え

(a) 入所後 (b) 現在

- | | | |
|---|---|---|
| 1 | 1 | どうせ・・・となげやりで自分に無関心（どうでもよい） |
| 2 | 2 | 自分の外見や人目（身なり、服装や体の清潔など）に無関心で注意を払わない |
| 3 | 3 | 自分の健康や身体の状態に無関心で注意を払わない |
| 4 | 4 | 自分の未来への関心ないし希望を持たない |
| 5 | 5 | 自分が他の人から好かれる（愛される）とは思っていない、或いは好かれる努力を放棄している |
| 6 | 6 | 自分のことしか考えない、自分のことで精一杯 |
| 7 | 7 | 特に気づく点はない |
| 8 | | その他（ |
| | 8 | その他（ |

N-1 自信について

(a) 入所後 (b) 現在

- | | | |
|---|---|--------------|
| 1 | 1 | 自分にいろいろ自信がない |
|---|---|--------------|

O 認知能力（知的能力）と基本的な学習能力（読み書き、計算など）

(a) 入所後 (b) 現在

- | | | |
|---|---|---|
| 1 | 1 | 知的発達普通で、それ相応の学習能力がうかがわれる |
| 2 | 2 | 知的発達は普通なのに、それに比して学習能力の低下やバランスの悪さが目立つ |
| 3 | 3 | 境界～軽度の知的遅れがあり、それ相応の学習能力がうかがわれる |
| 4 | 4 | 境界～軽度の知的遅れがあるが、それ以上の学習能力の低さやバランスの悪さが目立つ |
| 5 | 5 | 中度以上の知的遅れがみられる |
| 6 | | その他（ |
| | 6 | その他（ |

P 生活上の様子

(a) 入所後 (b) 現在

- | | | |
|----|----|--|
| 1 | 1 | 食事中ひどく落ち着かない |
| 2 | 2 | だらだら食べていて、なかなか終わらない |
| 3 | 3 | 人の膝にのれない、爪切りをこわがる |
| 4 | 4 | 入浴中背中を流させない |
| 5 | 5 | 下着を取り替えない |
| 6 | 6 | 生理の始末ができない |
| 7 | 7 | トイレが怖い |
| 8 | 8 | トイレでお尻をふかない |
| 9 | 9 | 水が怖くて顔が洗えない |
| 10 | 10 | 時計が読めない |
| 11 | 11 | 空想の世界に入りきっている姿が目立つ（踊ったり、学級委員などの役割を与えられたときなど、何かのりうつっているような） |
| 12 | 12 | 特に目だった点はない |
| 13 | | その他（ |
| | 13 | その他（ |

Q いわゆる「問題行動」

- 頻度にも ○ をつけてください
- a しじゅう：毎日のように
 - b しばしば：週に1～2度くらい
 - c ときどき：月に1～2度くらい
 - d たまに：何ヶ月に1度くらい

	(a) 入所後	(b) 現在
1 無断外出・無断外泊	(a・b・c・d)	(a・b・c・d)
2 窓ガラスを割るなど公共物・共有物への器物破壊	(a・b・c・d)	(a・b・c・d)
3 他の人の私有物への器物破壊	(a・b・c・d)	(a・b・c・d)
4 大人(スタッフ)への、けがを負わせる暴力	(a・b・c・d)	(a・b・c・d)
5 大人(スタッフ)への、けがを負わせない程度の暴力	(a・b・c・d)	(a・b・c・d)
6 他の子への、けがを負わせる暴力	(a・b・c・d)	(a・b・c・d)
7 他の子への、けがを負わせない程度の暴力	(a・b・c・d)	(a・b・c・d)
8 自傷行為	(a・b・c・d)	(a・b・c・d)
9 自殺企図	(a・b・c・d)	(a・b・c・d)
10 施設外での盗み、万引きなど	(a・b・c・d)	(a・b・c・d)
11 施設内での盗み	(a・b・c・d)	(a・b・c・d)
12 喫煙	(a・b・c・d)	(a・b・c・d)
13 飲酒	(a・b・c・d)	(a・b・c・d)
14 性的な逸脱行為(内容：)	(a・b・c・d)	(a・b・c・d)
15 その他()		
16 大きな「問題行動」はない		

R 主たる養育者に示す愛着と拒否(全児童について回答してください)

(a) 入所後 (b) 現在

- | | | |
|----|----|--------------------------------------|
| 1 | 1 | 愛着もしくは愛情欲求が過度に強い |
| 2 | 2 | 自然な愛着や愛情欲求が示される |
| 3 | 3 | 愛着や愛情欲求を示すが弱い(相手をうかがっているような) |
| 4 | 4 | 愛着や愛情欲求よりも不信や拒否感情の方が優位に示される |
| 5 | 5 | 愛着や愛情欲求はほとんど示されず、不信や拒否感情が強く示される |
| 6 | 6 | 愛着や愛情欲求と不信や拒否感情との間で揺れたり混乱する(アンビバレンツ) |
| 7 | 7 | あきらめたような、さめたような様子でいる |
| 8 | 8 | いずれも示さない、或いは無関心 |
| 9 | 9 | 不明(よくつかめない) |
| 10 | 10 | 養育者がいない |
| 11 | | その他() |
| | 11 | その他() |

S 主たる虐待養育者に示す愛着と拒否(被虐待児について回答してください)

まず、a、b、cのいずれかに○をつけてください

- a 主たる養育者が主たる虐待養育者である
・・・質問Rと同一回答で結構ですから記入してください
- b 主たる養育者と主たる虐待養育者は異なる
- c 主たる虐待養育者とは、現在関わりがない或いは薄い(離別・死別など)

(a) 入所後 (b) 現在

- | | | |
|---|---|------------------------------|
| 1 | 1 | 愛着もしくは愛情欲求が過度に強い |
| 2 | 2 | 自然な愛着や愛情欲求が示される |
| 3 | 3 | 愛着や愛情欲求を示すが弱い(相手をうかがっているような) |
| 4 | 4 | 愛着や愛情欲求よりも不信や拒否感情の方が優位に示される |

- | | | |
|----|----|--------------------------------------|
| 5 | 5 | 愛着や愛情欲求はほとんど示されず、不信や拒否感情が強く示される |
| 6 | 6 | 愛着や愛情欲求と不信や拒否感情との間で揺れたり混乱する（アンビバレンツ） |
| 7 | 7 | あきらめたような、さめたような様子でいる |
| 8 | 8 | いずれも示さない、或いは無関心 |
| 9 | 9 | 不明（よくつかめない） |
| 10 | | その他（ |
| | 10 | その他（ |

T 児童精神科領域についての医学的ケア（投薬、診察、医師によるアドバイス）の必要性について

(a) 入所後 (b) 現在

- | | | |
|---|---|---|
| 1 | 1 | 常時、定期的に医学的ケアを受けている |
| 2 | 2 | 定期的に経過観察のために医学的ケアを受けている |
| 3 | 3 | 状態によって受けることがある |
| 4 | 4 | 受けていないが、適切な医療があれば受けたい |
| 5 | 5 | 子どもは直接医学的ケアを受けていないが、職員が児童精神科医師の指導助言を受けている |
| 6 | 6 | 子どもは直接医学的ケアを受けていないが、職員が児童精神科医師の指導助言を受けたい |
| 7 | 7 | 受ける必要がない |
| 8 | | その他（ |
| | 8 | その他（ |

U ICD-10による診断名（はっきりしない場合、判断に迷う場合は空欄にして下さい）

（ 軸 軸 ）

V 以上の他に、特記事項があれば自由にお書きください

アンケート調査 その2

リスクアセスメント

整理番号

--	--	--

施設No

児童No

虐待経験の有無

(被虐待児0・非被虐待児1)

入所時の学年 小・中・高 () 年 年齢 () 歳 性別 (男 女)

入所年月 (西暦 年 月) 調査月日 (西暦2003年 月)

虐待の種類 (主◎ 従○ 身体 性的 ネグレクト 心理) 問題の発生年齢 () 歳

虐待者 (親は実、継の別を明記、兄弟等も含む) ()

入所時の養育者 (同居成人、親は実、継の別を明記) ()

こどもの側の要因 (MR、脳波異常、未熟児、慢性疾患、身体障害、その他) ()

入所経路 ()

該当項目に○をつけてください。(11~18「養育者」「養育状況」は、虐待者、非虐待者を含む。どちらかに該当すれば○)

1. 傷の程度	生命 / 重度	中	軽度	不明	部位(頭部・顔面・性器・頸部・内臓・臀部・上肢・下肢) 状態(血腫、骨折、裂傷、火傷、打撲、脱水症状、あざ、みみずばれ、皮膚疾患)
	はい やや いい え 不明				はいの内容 (あれば○) 特記は記入してください
虐待	2. 虐待の継続				繰り返し/常習/子を何日も放置する
	3. 虐待歴				入院/施設歴
	4. 性的虐待				擬/性病/妊娠等
	5. 関係機関からの情報				医療/警察/保健/学校/保健所/福祉事務所/民生児童委員/再三の近隣報告
子ども	6. 身体状態				障害/持病/発達遅れ/発育不全/アレルギー体質
	7. 精神的状態				不安/恐れ/鬱的/チック/脱毛/夜尿/遺尿/異食/無表情/攻撃的/暗い表情
	8. 日常的状态				衣食住の監護なし/非衛生、不潔/医療の放置/監督不十分
	9. 問題行動				暴力/盗み/家出/虚言/性的逸脱/自傷行為/深夜徘徊/怠学
	10. 意思・気持ち				親を嫌う/帰りがらない/アンビバレントな気持ち
養育者	11. 精神的状態				鬱的/精神症状/通院/服薬/疑いはあるが通院歴なし
	12. 性格的問題				衝動的/未熟/攻撃的/偏り/共感性欠如
	13. アルコール/薬物				依存/酔うと暴力/有機溶剤や覚醒剤乱用の疑い
	14. 被虐待歴				被虐待歴/愛されなかった思い
	15. 子感情/態度				子ども嫌い/産まなければ/アンビバレントな気持ち
養育状況	16. 虐待自覚なし				問題意識なし/体罰容認/しつけ主張
	17. 養育意欲/能力				意欲なし/能力低下/知的障害
	18. 養育知識				若年親/知識不足/不適切/期待過剰
家庭環境	19. 社会的サポート				孤立的/親族の対立/親族過干渉/保育なし/転居
	20. 夫婦問題				夫婦不和/夫婦間暴力/別居/家出/離婚問題
	21. 経済問題				ローン/生活苦/失業/転居/計画性欠如
	22. 生活環境				劣悪住居/安全確保への配慮なし
機関	23. 協力態度なし				機関介入拒否/接触困難
	24. 援助効果なし				調整改善期待できない
	25. 子を守る人なし				日常的に子供を危険から守る人がいない/危険な時子の逃げ場がない

平成15年度研究報告書

*児童虐待に対する情緒障害児短期治療施設の
有効活用に関する縦断研究*

平成16年 9 月30日発行

発 行 社会福祉法人 横浜博萌会
子どもの虹情報研修センター
(日本虐待・思春期問題情報研修センター)
〒245-0062 横浜市戸塚区汲沢町983番地
TEL. 045-871-8011 FAX. 045-871-8091
mail : info@crc-japan.net
homepage : <http://www.crc-japan.net>

編 集 主任研究者 滝 川 一 廣
共同研究者 四 方 燿 子
高 田 治

印 刷 (株)柏苑社 TEL. 045-711-5600